

官報

號外 昭和六年二月二十日

○第五十九回 衆議院議事速記第十六號

昭和六年二月十九日(木曜日)

午後一時四十八分開議

議事日程 第十五號

昭和六年二月十九日

午後一時開議

第一 抵當證券法案(政府提出)

第二讀會

第二 不動産登記法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第三 民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

第二讀會

第四 競賣法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第五 民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

第二讀會

第六 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第七 農工銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第八 北海道拓殖銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第九 國稅徵收法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十 右各案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第十一 貯蓄銀行法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第一讀會

第十三 取引所稅法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十五 郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十六 鐵道船舶郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第十七 辯護士法中改正法律案(北浦圭太郎君外三名提出)

第十八 中央卸賣市場法中改正法律案(藤田若水君外四名提出)

第十九 違警罪即決例中改正法律案(一松定吉君外三名提出)

第二十 行政執行法中改正法律案(一松定吉君外三名提出)

第二十一 家祿賞典祿給與未濟ニ關スル法律案(末松借一郎君外四名提出)

第二十二 鑛業法中改正法律案(大里廣次郎君外三十七名提出)

第二十三 鑛業法中改正法律案(坂井大輔君外二名提出)

第二十四 度量衡法中改正法律案(一松定吉君提出)

第二十五 計量士法案(一松定吉君提出)

第二十六 未成年者飲酒禁止法中改正法律案(長尾半平君外二十四名提出)

第二十七 恩給法中改正法律案(山下谷次君外一名提出)

第二十八 刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

第二十九 利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

第三十 民事訴訟法中改正法律案(村岡吾一君外三名提出)

○議長(藤澤幾之輔君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔書記官朗讀〕

一議員ノ異動左ノ如シ

宮城縣第一區選出議員中島鵬六君死去セラレタリ

一今十九日貴族院ヨリ受領シタル政府提出案左ノ如シ

明治四十年法律第十一號中改正法律案(癩豫防ニ關スル件)

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

治安警察法中改正法律案

寄生蟲病豫防法案

(以上二月十九日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

產業組合法中改正法律案

提出者

土井 權大君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

農工銀行法中改正法律案

提出者

土井 權大君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

日本勸業銀行法中改正法律案

提出者

土井 權大君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

辦理士法中改正法律案

提出者

名川 侃市君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

提出者

名川 侃市君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

提出者

名川 侃市君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

提出者

名川 侃市君 板谷 順助君

名川 侃市君 胎中楠右衛門君

北海道拓殖計畫ニ關スル建議案

提出者

小池 仁郎君 一柳仲次郎君

山本 厚三君 淺川 浩君

神部 爲藏君 澤田 利吉君

坂東幸太郎君 手代木隆吉君

前田卯之助君 岡田 春夫君

渡邊 泰邦君

(以上二月十八日提出)

樺太ニ市制施行ニ關スル建議案

提出者

喜多 孝治君 佐々木平次郎君

(以上二月十九日提出)

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メニ掲載ス〕

一昨十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ

米穀法中改正法律案(政府提出)外一件委員

辭任田中 養達君 補岡高橋壽太郎君

市制中改正法律案(政府提出)外三件委員

辭任西岡竹次郎君 補岡藤井 達也君

辭任藤田 若水君 補岡後藤 亮一君

○議長(藤澤幾之輔君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、此際幣原總理大臣臨時代理ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス——幣原總理大臣代理

(國務大臣男爵幣原喜重郎君登壇)

○國務大臣(男爵幣原喜重郎君) 濱口内閣總理大臣ノ最近ノ症狀ニ付キマシテ報告申上ゲマス

同首相ノ其後ノ經過ハ至リテ順調デアリマスルガ、今日ノ處デハ未ダ議會ニ出席ノ出來得ル程度ニハ立至リテ居リマセス、會期モ段々進行致シ、重要諸議案ガ議會ニ於テ審議セラレテ居リマスル大切ナ時期デアリマスルノニ、健康上ノ爲トハ言ヒナガラ出席シ得ザルコトハ、總理大臣自ラ之ヲ頗ル遺憾トシ、一方ナラズ苦慮セラレテ居ルノデアリマス

總理大臣目下ノ症狀ノ大體ヲ申上ゲマス

ルト、何分ニモ負傷ノ重カッ結果、體力ノ恢復ガ未ダ充分デナク、下肢ガ尙ホ運動ニ慣レマセヌ爲、登院ノ運ビニ至リ兼ネテ居ルノデアリマス、唯今ノ狀況カラ推測致シマスルト、今後意外ノ變化ノナイ限リハ、三月上旬中ニハ出席致スコトガ出來得ルデアラウト存ジテ居リマス(拍手)首相自身モ其心掛ケヲ以テ、折角歩行ノ練習其他體力ノ恢復ニ努メラレテ居ルノデアリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 秋田君カラ議事進行ニ付テ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス、秋田清君

○秋田清君 諸君、私ハ只今國務大臣幣原君ノ言明ニ付キマシテ、議事進行ニ關シ一言致シタイト存ジマス

本日貴族院ニ於テ幣原國務大臣ハ、濱口首相登院ノ時期ニ付テ御言明ニ相成ッタコトヲ承ハリ、當院ニ於テハ議長ヲ通ジテ此旨御聲明ニ相成ルコトヲ承リマシタノデ、私ハ斯ノ如ク貴族院ニ於テハ國務大臣自ラ言明ヲ致シ、衆議院ニ於テハ議長ヲ通ジテ聲明ヲ致スコト云フガ如キ舉動ハ、上下兩院ノ一ヲ重シトシ、一ヲ輕シトスルガ如キ政府ノ舉動ト相成リ(ノー)甚ダ然ルベカラザルコト、考ヘマシタガ故ニ、左様ノ過ハ避ケラル、コトガ宜シカラウト存ジマシテ、即チ法律的二申セバ、上下兩院ハ平等ノ地位デアリマスルケレドモ、政治的二申セバ衆議院ハ國民輿論ノ府デアアル(ヒヤヒヤ)此輿論ノ府ヲ輕ンズルガ如キ舉動ガアッテハ相成ラヌト云フコトヲ、議長ニ非

公式ニ御忠告申上ゲタノデアアル(拍手)本員ガ非公式ニ此點ヲ議長ニ御注意申上ゲマシタル結果、翻然トシテ議長ハ其態度ヲ改メラレ、政府モ亦本員ノ忠告ニ聽カレタコトト見エ、只今幣原君ノ御言明ガアリマシタガ、是ハ憲政ノ爲ニ多トスルノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○秋田清君(續) 過ヲ改メラル、コトニハ極メテ忠實ナルベシ、極メテ勇敢ナルベシ

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○秋田清君(續) 此議長ノ舉動、此政府ノ舉動ハ、將來モ亦斯クアランコトヲ私ハ望ムノデアアル(拍手)

尚ホ此言明ニ付キマシテ、私ハ茲ニ議事進行ニ必要ナル事柄ヲ致シマシテ、幸ニ當席ニ幣原國務大臣ガ居ラレマスカラ、直接幣原君ガ御答下サツテモ宜シイ、又議長ヲ通ジテ御答下サツテモ宜シイ、議事ノ進行ノ關係デアリマスルカラ、幸ニ議長ガ許サル、ナラバ、直接御答ニナリ、即時御答ニナルコトヲ吾々ハ希望スルノデアリマスルケレドモ、所謂議院法ノ規定、衆議院規則ノ規定ニ依ッテ、議長ガ政府ニ確メラレテ御答ニ相成、テモ、ソレハ議長ノ御考ニ私ハ一任スルノデアリマス、兎ニ角一二點御確メラ致シテ置キタイノデアアル、即チ

第一ハ只今ノ御言明、即チ濱口首相ハ三月上旬ニ至リタナラバ、衆議院ニ御出席相成ルト云フコトデアアル、上旬トハ申スマデモナク、一日ヨリ十日マデガ上旬デアアル、此一日ヨリ十日ニ至ルノ間ニ於テ、果シテ濱口總理大臣ハ當院ニ御出席ニナルト云フコトヲ、確ニ此處ニ御言明相成ルコトガ出來ルカドウカ、若シ三月上旬ニ登院スルコトガ出來ナカッタ場合ニ於テハ、憲政ノ本義ニ基イテ、其進退ヲ明カニセラル、意思デアアルカドウカ、之ヲ承リタイノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○秋田清君(續) 御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 御言明ニ付キマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 御言明ニ付キマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

ドモ、復タ再ビ所謂意外ナル支障ガ出來タト云フコトヲ以テ、其時ニ時日ヲ胡麻化サレルト云フヤウナコトニ相成ッタナラバ、國民ハ承知致サヌノデアアル、ソレデハ憲政ノ圓滿ナル運行ヲ見ルコトハ出來ナイノデアアル、私ハ將來ヲ心配致シマスルガ故ニ、敢テ此事ヲ政府ニ御確メ致シテ置クノデアアル、吾々ノ承ル所ニ依リマス云フコト、濱口首相ノ御病狀ハ今尙ホ全癒ニハ至テ居ラナイ、即チ階段ヲ御昇リニナルト云フコトニ付テモ御支障ガアル、室内六十五度ノ溫度ヲ保ッテ御靜養相成ルニアラザレバ、御病氣ノ爲ニハ宜シクナイト云フコトヲ承ッテ居リマスルガ、果シテ然リト致シマシタナラバ、三月上旬、只今カラ致シマシテ二週間以後ニ於テ、御登院ニナルト云フコトハ、可ナリ困難デハアルマイカト云フ懸念ヲ持ッテ居ルノデアリマス(拍手)果シテ此點ニ付テ吾々ヲ首肯セシムルコトガ出來ルカドウカ、茲ニ確メテ置クノデアリマス、再ビ言フ、即チ三月上旬ニ必ズ登院セラル、カドウカ、若シ登院セラレナイト云フ場合ニ於テハ、其責任ヲ明カニスル意思ガアルノデアアルカドウカ、此點ニ付テ……

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 御言明ニ付キマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 御言明ニ付キマス

○秋田清君(續) 若シハキリシタ御言明ガ出來ルコトデアリマスルナラバ、只今ノ幣原國務大臣ノ言明ニ對シテ、私共ハ相當ノ敬意ヲ拂フノデアリマスルケレドモ、若シソレハ其時ノ事情デアッテ、意外ノ變化ガ生ジタ場合ニハ已ムヲ得ヌト云フコト、即チ只今ノ御言明ノ中ニ附帶セラレテ居ルヤウナコトヲ、再ビ繰返サラル、ナラバ、只今ノ御言明ハ極メテ輕イ意味デアッテ、少シモ吾々ガ敬意ヲ拂フニ足ラナイ、權威ナキ言明デアルト云フコトヲ茲ニ明カニ致シテ、此點ヲ確メテ置クノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

議員高橋欽哉君ヨリ病氣ニ付二月十九日ヨリ同二十八日マデ向フ十日間請假ノ申出ガアリマス、許可スルニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ガナケレバ許可致シマス、更ニ御諮リ致シマス、地方鐵道補助法中改正法律案委員會、刑事補償法案委員會、市制中改正法律案外三件委員會、公娼制度廢止ニ關スル法律案委員會ノ各委員長ヨリ、本會議開會中モ委員會ヲ開キタイト云フ申出ガアリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルニ決シマシタ

只今御報告申上ゲマシタ通り、議員中島鵬六君ハ昨十八日逝去セラレマシタ、洵ニ痛惜哀悼ノ至リニ堪ヘマセヌ、此際小山倉之助君ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、小山倉之助君

○議長(藤澤幾之輔君) 其他發言スル者多シ

○小山倉之助君 只今御報告ニナリマシタ故衆議院議員中島鵬六君ニ對シ、院議ヲ以テ弔詞ヲ贈ルコト、シ、其起草ハ議長ニ一任スルコトノ動議ヲ提出致シマス、而シテ此際私ハ各位ノ御許シヲ得マシテ、議員一同ヲ代表シテ、故中島君ノ爲ニ哀悼ノ辭ヲ述ベタイト存ジマス

中島君ハ明治十八年宮城縣加美郡中新田町ニ生レ、明治四十五年東京帝國大學法律科ヲ卒業シ、大正元年辯護士ヲ開業シ、去大正九年第十四回衆議院議員總選舉ニ、初メテ宮城縣第一區ヨリ選出セラレ、本院議員トナリ、大正十三年マデ勤続、其後昭和三年及同五年ニ於ケル兩度ノ衆議院議員總

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

選舉ニ當選シ、憲政ノ爲ニ盡瘁セラレマシタ、大正十一年ニ仙臺市選出長ニ當選セラレ、其後昨年九月再選セラレ、尙ホ昭和三年ニハ馬政委員會委員ニ囑託セラレマシテ、地方ニ於ケル功績モ尠クナイノデアリマス、然ルニ昨十八日俄ニ逝去セラレマシタコトハ、洵ニ驚愕痛惜ノ至リニ堪ヘマセヌ、茲ニ謹シテ故人ニ對シ哀悼ノ意ヲ表ス次第デアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 小山君ノ提出セラレタル動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕(異議ナシノ聲起ル)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ議長ノ手許ニ於テ起草致シマシタ弔詞ヲ茲ニ朗讀致シマス

衆議院ハ議員中島鵬六君ノ長逝ヲ哀悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス

之ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ〕(異議ナシノ聲起ル)

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ議長ヨリ此弔詞ヲ贈呈スルコトヲ取計ヒマス(拍手)

武藤山治君カラ議事進行ニ付テ發言ヲ求メラレテ居リマス、之ヲ許シマス、武藤君

(武藤山治君登壇)

○武藤山治君 議事進行ニ付キ一言スルノ御許シヲ願ヒタイト考ヘマス、私ハ第一ニ議長ニ向テ、次ニ議長ヲ通ジマシテ、政府ノ御答辯ヲ求メ、議事進行ニ資シタイト考ヘルモノデアリマス、私ノ第一ニ議長ニ御尋致シタイト考ヘマスルノハ、一月二十八日吾々ヨリ提案シタル救護法ニ關スル決議案ノ上程ヲ、何ガ故ニ今日マデ上程ノ御運ビニ御取計ヒ下サヌカト云フコトデアリマス、私ヨリ申上グルマデモナク、救護法ハ生活、能力無ク、而モ扶養者ノナイ所ノ六十五歳以上ノ老年者、十二歳以下ノ幼者、及ビ不具、癱疾、傷痍其他精神又ハ身體ノ障礙ニ依リ、勞役ニ堪ヘナイ者ヲ救護スル法律デアリマス、此法律ハ昭和四年三月議會ヲ

通過シタモノデアリマスガ、今日ニ於キマシテハ、其當時ヨリモ一層緊急性ヲ帶ビテ居ルモノデアリマス、然ルニ政府ニ於キマシテハ、昭和五年度ノ豫算ニモ其費用ヲ計上セズ、又昭和六年度ノ豫算ニモ、之ヲ計上サレナイト云フコトハ、私ハ政府ニ於テ之ニ對スル十分ナル誠意ヲ認メルコトガ出來ナイト考ヘル者デアリマス、斯ル場合ニ於キマシテハ、直接國民ヲ代表スル衆議院ニ於キマシテハ、院議ヲ以テ政府ニ向テ救護法ノ實行ヲ督促スル事ハ、吾々ガ國民ニ對スル義務デアッテ、今日ノ如キ場合ニ於キマシテハ、私ハ一日モ緩ウスルコトガ出來ナイモノデアルト信ズルノデアリマス(拍手)

然ルニ此問題ニ對シマシテ、吾々ハ既ニ議長ヨリ形式的ノ御答辯ハ承テ居ルノデアリマス、私ガ今日議長ニ向テ御尋ヲ申上ゲテ、御答ヲ願ヒタイト考ヘマスルノハ、既ニ御答ニナッタヤウナ形式的ノ、所謂通り一片ナ御挨拶デナクシテ、モット親切ナ御答ヲ願ヒタイト存ジマス

次ニ私ハ議長ヲ通ジテ政府ニ向テ御尋ヲシタイト考ヘマス、此救護法ハ實ニ昭和五年以來ノ問題デアリマシテ、今日ハ最も其急ヲ告ゲテ居ルモノデアルコトハ、過日來全國ノ方面委員諸君ガ東京ニ集ッテ、遂ニ政府ニ之ヲ實行スル誠意ナシト認メテ、長クモ上奏スルノ手續ヲ執ッタト云フコトニ付テモ、私ハ極メテ明カダト思フノデアリマス(拍手)斯ル問題ニ對シマシテ、苟モ政府ガ全國ノ方面委員ヲシテ聖慮ヲ煩ハシ奉ルニ至ラト云フヤウナ、事ノ茲ニ至ラシメタ責任ハ、政府全體トシテモ、勿論御考ニナルデアラウト考ヘマスガ、其局ニ當テオイデニナル安達内相ハ、少クモ私ハ重大ナル責任ヲ御感ジニナッテ然ルベキモノデアルト信ズルノデアリマス(拍手)先頃英國ノ勞働黨内閣ノ一員タル「サー・モスリ

」氏ガ引責辭職サレタノデアリマス、此事ハ諸君モ御承知ト考ヘマスガ、此「サー・モスリー」氏ガ辭職スルニ當テ、勞働黨内閣ノ首相「マクドナルド」氏ニ送ッタ書面ニ依リマスルト、先頃ノ總選舉ニ於テ、勞働黨ハ國民ニ向テ、完全ナル失業對策ヲ講ズルト云フコトヲ約束シタニ拘ラズ一年餘ヲ經テ尙ホ之ヲ實行シナイト云フコトニ付テハ、自分ハ自責ノ念ニ堪ヘヌカラシテ内閣ヲ去ル、斯ウ云フ意味ノ書面ヲ送ッテ、遂ニ辭職セラレタノデアリマス、若シ安達内相ガ斯クマデノ御決心ガナクテモ、此問題ニ對シテ十分ナル責任ヲ感ジラレテ、場合ニ依ッテハ引責辭職モ覺悟セラレテ閣議ニ臨マレタナラバ、僅カ年四百萬圓ト云フヤウナ、斯ウ云フ少額ノ財源ノ爲ニ、此救護法ノ實施ガ昭和五年度ニ行ハレズ、昭和六年度モ其實行ヲ危ブマレル、斯ウ云フヤウナコトハ私ハナカルベキ筈デアルト思ヒマス(拍手)之ニ對シテ救護法ノ其局ニ當テ居ラル、安達内相、其御覺悟ハ如何デアルカ、斯ノ如キハ小サナ問題デアル、斯ウ御考ニナッテ居ルカドウカ、此點ニ付テ私ハ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス、又

井上藏相ニ私ガ御尋シタイト考ヘマスノハ、過日來井上藏相ノ御答辯ヲ拜聴致シテ居リマスルト云フト、極メテ鮮明ヲ缺イテ居リマス、最近議場ニ於ケル御答辯ニ依リマシテモ、之ヲ實行シタイ意思ハ十分持ッテ居ケレドモ、財源ノ捻出ニ苦心シテ居テ、未ダ完全ニ之ヲ實行スルコト云フ意思ヲ表明セラレナイ、之ヲ避ケラレテ居ルコトハ速記録ニ依ッテ明カデアリマス、井上藏相ハ既ニ失業對策トシテ、其財源三千萬圓前後ノ公債ヲ募集スルコトニ同意セラレテ居ル、然ラバ失業者ト同ジク、若クハ失業者以上、氣ノ毒ナ地位ニ在ル所ノ、社會ノド底ニ於テ憐ム人々ヲ救護スル財源ヲ、何ガ故ニ公債ニ求メラレナイカ、之ヲ公債ニ求メラレテ速ニ實行セラレルト云フコトガ、私ハ極メテ願ハシイコトデアルト考ヘルノデアリマス(拍手)

先頃大阪ノ中ノ島公園ノ橋ノ下ニ、百名近クノ雨露ヲ凌イデ、漸ク露命ヲ繋イデ居ル所ノ一團ガアッタノデアリマス、之ヲ近所ノ人ノ苦情ニ依ッテ追拂ッタ所ノ警察官ノ告白ニ依リマス、斯ノ如キ心苦シク感ジタコトハナイト云ッテ居ラレマス、當時其狀況ハ、大阪ノ新聞紙上ニ寫眞マデ掲載セラレマシテ、之ヲ追フ人、追ハル、人々ノ悲痛ナル告白ハ、何人ト雖モ涙ナクシテ之ヲ讀ムコトノ出來ナイモノデアリマシタ、斯ノ如キ吾々同胞ノ中ノ不幸ナル人々ヲ救済スル救護法ノ財源僅ニ四百萬圓、是ガ公債支辨ニ依ッテ實現シナイト云フ理由ヲ知ルニ苦シムノデアリマス、或ハ井上藏相ハ斯ウ仰セニナルカモ知レマセヌ、失業ノ財源タル三千萬圓ノ公債ハ、是ハ一年限リノモノデアアル、是ハ臨時ノモノデアアル、救護法ノ財源四百萬圓ハ、是ハ恆久的ノモノデアアルカラ、非募債主義ヲ執ル現内閣ハ、公債ニ依ルコトハ出來ヌト仰セニナルカモ知レマセヌガ、併シ私ハ井上藏相ガサウ云フ風ニ仰シヤラズニ、此四百萬圓ノ恆久ノ財源ヲ差當リ公債ニ求メテ、議會ハ追加豫算ヲ御出シニナッタ時ニ、若シ在野黨ノ中カラシテ、政府ノ非募債政策ノ破綻ヲ責メラレマシタナラバ、井上藏相ハ是ハ本年度限リ公債ニ依ルガ、何レ財政行政ノ整理ニ依ッテ、來ル七年度以降ニ於テハ、必ズ公債以外ノ一般財源ニ依ッテ之ヲ賄フヤウニスル、決シテ非募債政策ノ破綻デナイト、斯ウ御答ニナッタラ差支ナイト思ヒマス、井上藏相ガ非募債主義ト云フヤウナ事ニ口ヲ執ッテ、サウシテ斯ル最モ氣ノ毒ノ境遇ニ立ッテ居ル同胞ヲ救フ所ノ、此救護法ノ實施、之ヲ遲延セラレルト云フコトハ、私ハ井上藏相ノ爲ニ惜マザラ得ナイノデアリマス、井上藏相ハ生絲ノ暴落ヲ防グ爲ニ、生絲補償法ノ發動ニ同意シテ、三千萬圓國庫ノ損失ヲ招カレタノデアリマス、又昨年末ニ於テハ、極メテ少數ノ人々ノ破綻ヲ彌縫スル爲ニ、與

業銀行ニ命ジテ七千万圓ヲ支出セシメ、救助サレタノデアリマス、然ルニ此二十万ニ近イ全國ニ於ケル最モ氣ノ毒ナル地位ニ落チテ居ル人々ヲ救護スル所ノ、此救護法ノ實施ヲスル財源四百萬圓ヲ支出スルコトヲ躊躇シテ、未ダ其實現ニ付テ明言ヲ與ヘラレナイト云フコトハ、私ハ井上藏相ハ強者ノ前ニハ極メテ怯懦デアリ、同情心ニ乏シイモノデアルト言ハレテモ辯解ノ辭ハアルマイ(拍手)斯ノ如キ憐ムベキ同胞ヲ救護スル法案ヲ、之ヲ實行スル勇氣ニ乏シイト云フ斯ノ如キ政治ハ、私ハ我が國家ノ上ニ不幸ナル結果ヲ招來スル危險ナルモノデアルト深ク憂フルモノデアリマス、故ニ私ハ茲ニ第一ニ議長ニ御願シタイノハ、私ノ申上タル所ニ全然同感ノ意ヲ表セシレテ、慣例ニ依リテ各派交渉會ヘ交渉ヲ遂ゲテ、次ノ本會議ニハ必ズ救護法ニ關スル吾々ノ決議案ヲ上程スルコトニ努力スルト、斯ウ私ハ御答ヲ願ヒタイト考ヘマス

第二ニハ、政府ニ於テモ今一應閣議ヲ開カレテ、從來ノ如キ曖昧ナル態度ヲ捨テ、此問題ニ對シテハキリ吾々ノ前ニ明言セラレシコトヲ偏ニ御願ヲ致シマス(拍手)
○議長(藤澤幾之輔君) 武藤君ニ御答致シマス、政府ニ對スル御尋ニ付キマシテハ、議長ヨリ其旨ヲ通ジテ置キマス、又日程ノ作製ニ付キマシテハ、此問題ニ付テ去ル十四日中田君カラ御尋ガアリマシテ、御答ヲ致シテ居タルヲ繰返シニ過ギナイノデアリマス、併ナガラ形式ノコトハ先日ノ答辯デ分クガ、モト親切ニヤラヌカト云フ意味ノ御言葉ガアリマシタカラ、之ニ附加ヘテ御話致シマスナラバ、此順序ヲ變ヘテ早ク上程シヨウトナサルナラバ、緊急上程ノ手續ヲ御取リナサルヨリ、他ニ途ガナイデハナイカト考ヘルノデアリマス、之ヲ以テ御答ト致シマス

是ヨリ日程ニ入リマス、日程第一乃至第

九ハ關聯セル議案ナルニ依リテ、一括議題ト爲スニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、日程第一、抵當證券法案、日程第二、不動産登記法中改正法律案、日程第三、民事訴訟法中改正法律案、日程第四、競賣法中改正法律案、日程第五、民事訴訟用印紙法中改正法律案、日程第六、日本勸業銀行法中改正法律案、日程第七、農工銀行法中改正法律案、日程第八、北海道拓殖銀行法中改正法律案、日程第九、國稅徵收法中改正法律案ノ九案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——渡邊司法大臣

第一 抵當證券法案(政府提出)

第一讀會

抵當證券法案

抵當證券法

第一條 土地、建物又ハ地上權ヲ目的トスル抵當權ノ有スル者ハ其ノ登記ヲ管轄スル登記所ニ抵當證券ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

抵當權ノ目的物ガ數個ノ登記所ノ管轄地ニ散在スルトキハ抵當證券ノ交付ハ其ノ一ノ登記所ニ之ヲ申請スルコトヲ要ス

抵當證券交付ノ申請ハ申請人(代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ代理人)登記所ニ出頭シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ抵當證券ヲ發行スルコトヲ得ズ

- 一 抵當權ガ根抵當ナルトキ
- 二 抵當權ニ付本登記ナキトキ
- 三 債權ノ差押若ハ假差押ノ登記又ハ抵當權ノ處分禁止若ハ抵當權ヲ他ノ債權ノ擔保ト爲シタル旨ノ登記アルトキ
- 四 債權又ハ抵當權ニ附シタル解除條

件ノ登記アルトキ
第三條 抵當證券ヲ交付ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

一 申請書
二 抵當權者ノ權利ニ關スル登記簿謄本
三 手形其ノ他ノ債權ニ關スル證書
四 抵當證券發行ノ特約ノ登記ナキトキハ抵當權設定者又ハ第三取得者及債務者ノ同意書

五 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面
前項第三號ノ證書ナキトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第一條第二項ノ申請ヲ爲スニハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ且他ノ登記所ノ管轄ニ屬スル目的物ノ登記簿謄本並ニ其ノ登記所ノ數ニ應ジ申請書ノ副本及附屬書面ノ寫本ヲ提出スルコトヲ要ス

抵當證券ノ交付ヲ申請スルニハ命令ヲ定ムル所ニ依リ手数料ヲ納付スルコトヲ要ス

第四條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ記名捺印スルコトヲ要ス

一 申請人ノ氏名及住所
二 代理人ニ依リテ申請スルトキハ其ノ氏名及住所

三 抵當權ノ目的タル土地、建物又ハ地上權ノ表示
四 抵當權設定者及第三取得者ノ氏名及住所

五 抵當權ノ順位及登記ノ年月日
六 不動産登記法第一百七條ニ掲グル事項

七 債務者ノ氏名及住所
八 抵當權、質權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ債權額、債權者ノ氏名及住所並ニ登記ノ年月日

九 地上權、永小作權、地役權又ハ賃借權ノ登記アルトキハ其ノ權利者ノ

氏名及住所並ニ登記ノ年月日
十 登記所ノ表示
十一 申請ノ年月日

第五條 登記官吏ハ抵當證券交付ノ申請ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スルコトヲ得但シ申請ノ欠缺ガ補正スルコトヲ得ベキモノナル場合ニ於テ申請人ガ即日之ヲ補正シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 其ノ登記所ノ管轄ニ屬セザルトキ
二 第二條ニ規定スル事由アルトキ
三 申請書ニ記載シタル事項ガ登記簿ト符合セザルトキ

四 申請人ガ出頭セザルトキ
五 申請書ガ方式ニ適合セザルトキ
六 必要ナル書面ヲ提出セザルトキ
七 手数料ヲ納付セザルトキ

第一條第二項ノ申請アリタル場合ニ於テハ登記官吏ハ申請書ノ副本及附屬書面ノ寫本ヲ各管轄登記所ニ送付シ其ノ管轄ニ屬スル目的物ニ付抵當證券ヲ作成スベキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス

第六條 抵當證券交付ノ申請ヲ受理シタルトキハ登記官吏(前條第二項ノ規定ニ依リ囑託アリタルトキハ其ノ部分ニ付テハ囑託アリタルトキハ其ノ部分ニ付テハ囑託ナク抵當證券ノ交付ニ付異議アラバ一定ノ期間内ニ之ヲ申立ツベキ旨ヲ抵當權設定者、第三取得者、債務者、抵當權又ハ其ノ順位ノ讓渡人及先順位ヲ拋棄シタル者ニ催告スルコトヲ要ス但シ抵當證券ノ發行ヲ妨グル事由アルコトヲ發見シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

囑託ヲ受ケタル登記所ノ登記官吏ガ抵當證券ノ發行ヲ妨グル事由アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ囑託ヲ爲シタル登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第一項ノ催告ニハ第四條第一號及第三

號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

債務者ニ對スル催告ニハ前項ノ事項ノ外第三條第一項第三號ノ證書ガ手形ナルトキハ其ノ表示及同條第二項ノ規定ニ依リ記載シモ記載スルコトヲ要ス

第七條 抵當證券ノ交付ニ關スル異議ハ左ノ理由ニ基クトキニ限り之ヲ申立ツルコトヲ得

一 申請ニ付第二條ニ規定スル事由アリコト

二 債權ノ質入、差押又ハ假差押アリタルコト

三 催告ニ記載シタル事項ガ登記簿ノ記載又ハ事實ト符合セザルコト

四 債務者ガ抵當權者ニ對シ相殺ヲ以テ對抗シ得ベキ債權ニシテ其ノ辨濟期ガ抵當權者ノ債權ノ辨濟期以前ニ到來スルモノヲ有スルコト

異議ハ他ノ利害關係人ノ權利ニ關スル理由ニ基キ之ヲ申立ツルコトヲ得ズ

異議申立ノ權利ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ズ

第八條 異議ニ關スル裁判ハ抵當證券交付ノ申請ヲ受理シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ於テ非訟事件手續法ニ依リ之ヲ爲ス

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

異議ノ申立ヲ受理シタルトキハ登記官吏ハ事件ヲ管轄裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第九條 異議ニ關スル裁判確定シタルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ關係登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第十條 第六條ノ催告ヲ受ケタル者ハ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得理由ニ付テハ其ノ申立ヲ爲シタルモノニ非ザレバ之ヲ以テ抵當證券ノ善意ノ取得者ニ對

抗スルコトヲ得ズ

異議ノ申立ヲ理由ナシトスル裁判確定シタル場合ニ於テハ其ノ申立ヲ爲シタル者ハ二月内ニ訴ヲ提起スルニ非ザレバ申立ヲ爲シタル事由ヲ以テ抵當證券ノ善意ノ取得者ニ對抗スルコトヲ得ズ

前項ノ訴ノ提起アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ公告スルコトヲ要ス

第十一條 第六條ノ催告ニ指定シタル期間内ニ異議ノ申立ナキトキハ登記官吏ハ抵當權ノ目的物ガ其ノ登記所ノ管轄地ノミニ在ル場合ニハ直ニ、抵當權ノ目的物ガ數個ノ登記所ノ管轄地ニ散在スル場合ニハ囑託ヲ受ケタル登記所ヨリ抵當證券ノ交付ヲ受ケタル後直ニ抵當證券ヲ交付スルコトヲ要ス異議ヲ理由ナシトスル裁判確定シタルトキ亦同ジ

第十二條 抵當證券ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ登記官吏記名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スルコトヲ要ス

一 證券ノ番號

二 第四條第一號及第三號乃至第九號ニ掲グル事項

三 登記所ノ表示

四 證券作成ノ年月日

囑託ヲ受ケタル登記所ヨリ抵當證券ノ交付ヲ受ケタルトキハ登記官吏ハ其ノ作成ニ係ルモノト一括シ之ニ各證券ハ同一ノ債權ノ爲ニ作成シタルモノナル旨ヲ記載シ且記名捺印スルコトヲ要ス

第十三條 第三條第一項第二號及第三號ノ書面ノ提出アリタル場合ニ於テ抵當證券ヲ交付シタルトキハ登記官吏ハ抵當證券ヲ交付シタル旨ヲ其ノ書面ニ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シテ之ヲ申請人ニ還付スルコトヲ要ス其ノ書面中ニ手形アルトキハ其ノ手形ハ爾後效力ヲ有

セズ

第十四條 抵當證券ノ發行アリタルトキハ抵當權及債權ノ處分ハ抵當證券ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

抵當權ト債權トハ分離シテ之ヲ處分スルコトヲ得ズ

第十五條 抵當證券ノ讓渡ハ裏書ニ依リテ之ヲ爲ス

第十六條 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ抵當權ノ變更ハ不動産登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ登記ヲ爲シ且抵當證券ノ記載ノ變更ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ數個ノ不動産ニ付抵當權アル場合ニ於テ其ノ一ヲ消滅セシメタルトキ亦同ジ

第十七條 抵當證券ノ記載ノ錯誤又ハ遺漏ガ登記ノ錯誤又ハ遺漏ニ基カザル場合ニ於テハ所持人ハ抵當證券ノ記載ノ變更ヲ申請スルコトヲ得債務者ノ表示ノ變更其ノ他ノ事由ニ因リ登記ヲ變更又ハ更正シタル爲抵當證券ノ記載ガ登記ト符合セザルニ至リタル場合亦同ジ

第十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外抵當證券ノ記載ノ變更ハ不動産登記法第五十六條、第六十四條、第八十一條又ハ第九十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十九條 抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テ登記官吏ガ抵當權ノ變更、消滅又ハ更正ノ登記ヲ完了シタルトキハ抵當證券ノ記載ヲ變更シ之ヲ其ノ所持人ニ還付スルコトヲ要ス

第二十條 前條ノ規定ハ不動産登記法第八十一條又ハ第九十三條ノ登記ヲ完了シタル場合ニ之ヲ準用ス

シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條 抵當證券ノ所持人ハ左ノ場合ニ於テ抵當證券ヲ交付シタル登記所ニ證券ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

一 證券ヲ汚損シタルトキ

二 證券ヲ喪失シタル場合ニ於テ除權判決アリタルトキ

第二十二條 抵當證券ノ再交付ニ關シテハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外第三條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 不動産登記法第六十五條ノ場合ニ於テ登記官吏ガ回復登記ノ手續ヲ完了シタルトキハ更ニ抵當證券ヲ作成シ舊證券ノ所持人ニ交付スルコトヲ要ス

第二十四條 民法第三百七十八條及第三百八十一條乃至第三百八十七條ノ規定ハ抵當證券ノ發行アリタル抵當權ニハ之ヲ適用セズ

第二十五條 抵當證券ノ所持人ハ元本ノ一部又ハ利息ノ支拂アリタルトキハ證券ニ其ノ金額及受領ノ年月日ヲ記載シ且之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二十六條 債務者ガ利息ノ支拂ヲ怠リタル場合ニ於テ其ノ延滞ガ二年ニ達シタルトキハ元本ノ辨濟期到來シタルモノト看做ス但シ抵當證券ニ特約ノ記載アルトキハ其ノ定ニ從フ定期ニ元本ヲ辨濟スベキ場合ニ於テ其ノ延滞ガ二年ニ達シタルトキ全元本ニ付亦同ジ

第二十七條 抵當證券ノ所持人ハ元本ノ辨濟期後一月内ニ債務者ニ對シテ支拂ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者ガ支拂ヲ爲サザルトキハ抵當證券ノ所持人ハ公證人又ハ執達吏ニ其ノ支拂ナキ旨ヲ證明ヲ求ムルコトヲ要ス

第二十八條 抵當證券ニ元本及利息ノ支拂ノ場所ノ記載ナキ場合ニ於テ債務者ノ現時ノ住所ガ知レザルトキハ登記簿

ヲ加フ

抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ其抵當權ノ變更登記ノ申請書ニ抵當證券ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十五條中「添附スルコトヲ要ス」ヲ「添附スルコトヲ要ス尙登記ノ回復ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル抵當證券ノ所持人又ハ裏書人アルトキハ其者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲモ添附スルコトヲ要ス」ニ改ム

第七十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

登記官吏ハ回復ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ前登記ニ付キ職權ヲ以テ記載シタル事項アリタルコトヲ發見シタルトキハ其事項ヲモ記載スルコトヲ要ス

第八十一條中「添附スルコトヲ要ス」ヲ「添附スルコトヲ要ス尙抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ其所持人又ハ裏書人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲモ添附スルコトヲ要ス」ニ改ム

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第五十六條第二項ノ規定ハ抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於ケル前項ノ申請ニ之ヲ準用ス

第七十七條中「其發生期若クハ支拂時期ノ定アルトキ」ノ下ニ「元本若クハ利息ノ支拂場所ノ定アルトキ」ヲ加ヘ「又ハ民法第三百七十條ノ但書ノ定」ヲ「民法第三百七十條但書ノ定アルトキ又ハ抵當證券發行ノ定」ニ改ム

第一百十九條ノ二 抵當證券ノ發行アル抵當權ノ目的物ノ讓渡ニ因ル移轉ノ登記ヲ爲シタルトキ又ハ抵當權ノ目的物ノ讓渡ニ因ル移轉ノ登記ヲ爲シタル後抵當證券ノ發行アリタルトキハ抵當權設定者ハ其氏名、住所ノ登記ヲ申請スルコトヲ得但抵當權設定者カ債務者ニ非サルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ登記ハ抵當權設定ノ登記ニ附記シテ之ヲ爲ス

第二百二十六條ノ三 登記官吏カ抵當證券ヲ交付シタルトキハ職權ヲ以テ抵當權設定ノ登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

第二百二十六條ノ四 登記官吏カ抵當證券法第五條第二項ノ囑託ニ因リ抵當證券ヲ作成シタルトキハ職權ヲ以テ抵當權設定ノ登記ニ其旨ヲ附記スルコトヲ要ス

抵當證券法第一條第二項ノ申請アリタル場合ニ於テ登記官吏カ抵當證券ヲ交付シタルトキハ他ノ登記所ニ前條ノ登記ヲ囑託スルコトヲ要ス其申請ヲ却下シタルトキハ前項ノ規定ニ依ル登記ノ抹消ヲ囑託スルコトヲ要ス

第二百二十六條ノ五 前條第一項ノ規定ニ依ル登記アリタル不動産ニ付キ同條第二項ノ囑託ニ因リ抵當證券交付ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ハ同條第一項ノ規定ニ依ル登記ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス

第四百四十六條中「添附スルコトヲ要ス」ヲ「添附スルコトヲ要ス尙登記ノ抹消ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル抵當證券ノ所持人又ハ裏書人アルトキハ其者ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲモ添附スルコトヲ要ス」ニ改ム

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

抵當證券ノ發行アリタル場合ニ於テハ其抵當權ノ抹消ノ登記ノ申請書ニ抵當證券ヲ添附スルコトヲ要ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三 民事訴訟法中改正法律案(政府提出)

民事訴訟法中改正法律案 第一讀會

民事訴訟法中左ノ通改正ス

第六百四十三條中「地價」ヲ「賃賃價格」ニ改ム

第六百四十八條ニ左ノ一號ヲ加フ

第五 知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人

第六百九十八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

債權ノ届出ヲ爲ササル抵當證券ノ所持人ノ債權又ハ其順位ニ對シテ異議ノ申立ヲ爲シタル債務者又ハ他ノ債權者ノ提起スヘキ訴ニ付テハ第六百九十七條ノ規定ニ依リ準用セラルル第六百三十三條ノ期間ハ其所持人ノ知レタル日ヨリ之ヲ起算ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第六百四十三條ノ改正規定ハ地租法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四 競賣法中改正法律案(政府提出)

競賣法中改正法律案 第一讀會

競賣法中左ノ通改正ス

第二十四條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

抵當證券ノ所持人カ競賣ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書面ノ外申立書ニ抵當證券ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十七條 第三項ニ左ノ一號ヲ加フ

五 知レタル抵當證券ノ所持人及ヒ裏書人

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五 民事訴訟用印紙法中改正法律案

民事訴訟用印紙法中改正法律案 第一讀會

民事訴訟用印紙法中左ノ通改正ス

第十六條第二項ニ左ノ一號ヲ加フ

四 抵當證券法ニ依ル異議ノ申立及ヒ同法第三十二條第一項ノ規定ニ依リ許可ノ申請

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六 日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中改正法律案 第一讀會

日本勸業銀行法中改正法律案

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

第十四條第二項中「拂込資本金及積立金總高ニ相當スル金額ヲ限リ」ヲ削リ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ貸付金額及第三十一條ノ二ノ貸付金額ハ拂込資本金及積立金總高ノ二倍ヲ超過スルコトヲ得ス

第十四條ノ二中「宅地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付金額」ヲ「宅地若ハ建物ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トスル貸付金額」ニ改ム

第十五條第四項中「定期償還ノ方法ニ依リ」ノ下ニ「又ハ十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ」ヲ加フ

第十五條ノ二中「田、畑、鹽田、山林、牧場、養魚池又ハ漁業權ヲ抵當トスル貸付」ヲ「田、畑、鹽田、山林、牧場若ハ養魚池ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トスル貸付、漁業權ヲ抵當トスル貸付」ニ改ム

第三十一條ノ一ヲ第三十一條トシ第三十一條ノ二ヲ第三十一條ノ四トス

第三十一條ノ二 日本勸業銀行ハ不動産ヲ抵當トスル債權(抵當證券ヲ含ム)ヲ質トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十六條第一項、第十七條、第十八條、第二十六條及第二十七條ノ規定ハ前項ノ貸付ノ擔保タル債權ニ附隨スル抵當權及其ノ目的タル不動産ニ之ヲ準用ス

第三十一條ノ三 日本勸業銀行ハ抵當證券ノ賣買ヲ爲スコトヲ得

本法中貸付ニ關スル規定ハ抵當證券ノ買入ニ關シ之ヲ準用ス

第三十二條第二項中「第十四條第二項」ノ下ニ「及第三十一條ノ二」ヲ加フ

第三十二條ノ三 日本勸業銀行ハ其ノ發行スル債券ニシテ政府ノ所有又ハ保管

ニ係ルモノヲ日本銀行ノ爲ニ管理スルコトヲ得

第五十六條第三號中「第三十一條ノ二」ヲ「第三十一條ノ四」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七 農工銀行法中改正法律案（政府提出）

農工銀行法中改正法律案 第一讀會

第六條第二號中「拂込資本金及積立金總高」ノ下ニ「府縣」ヲ、同條第三號中「市町村」ノ上ニ「府縣」ヲ、同條第五號中「定期償還ノ方法」ニ依リ「ノ下ニ」又ハ十箇年以內ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ「ヲ加フ

第六條ノ二中「宅地又ハ建物ヲ抵當トスル貸付金額」ヲ「宅地若ハ建物ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トスル貸付金額」ニ改ム

第七條中「拂込資本金額及農工債券發行額ノ四分ノ三迄」ヲ「拂込資本金額及農工債券發行額迄」ニ改ム

第七條ノ三ヲ第七條ノ五トス

第七條ノ四ヲ第七條ノ六トシ同條中「田、畑、鹽田、山林、牧場、養魚池又ハ漁業權ヲ抵當トスル貸付」ヲ「田、畑、鹽田、山林、牧場若ハ養魚池ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トスル貸付、漁業權ヲ抵當トスル貸付」ニ、

「第七條ノ三」ヲ「第七條ノ五」ニ改ム

第七條ノ三 農工銀行ハ第六條第二號ノ制限内ニ於テ不動産ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トシ五箇年以內ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第八條第一項、第九條、第十條、第十八條及第十九條ノ規定ハ前項ノ貸付ノ擔保タル債權ニ附隨スル抵當權及其ノ目的タル不動産ニ之ヲ準用ス

第七條ノ四 農工銀行ハ抵當證券ノ賣買ヲ爲スコトヲ得

本法中貸付ニ關スル規定ハ抵當證券ノ買入ニ關シ之ヲ準用ス

第二十條中「市町村」ノ上ニ「府縣」ヲ加ヘ「前項」ノヲ削リ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ農工銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ、市町村其ノ他法律ヲ以テ組織セル公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

第二十三條第二號中「第六條各項」ヲ「第六條及第七條ノ三」ニ改ム

第二十四條第一項中「日本勸業銀行」ノ下ニ「又ハ他ノ農工銀行」ヲ加ヘ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

農工銀行ハ不動産ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トシテ日本勸業銀行ヨリ定期償還ノ方法ニ依リ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二十六條第一項中「十倍」ヲ「十五倍」ニ改メ同項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ年賦償還貸付金總高及定期償還貸付金總高ヨリ第二十四條第四項及第五項ニ依リ質ト爲シタルモノヲ控除シタル金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十七條中「第二十四條第四項」ノ下ニ「又ハ第五項」ヲ加フ

第四十六條第一號中「第七條ノ四」ヲ「第七條ノ六」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八 北海道拓殖銀行法中改正法律案（政府提出）

北海道拓殖銀行法中改正法律案 第一讀會

北海道拓殖銀行法中改正法律案

第七條ノ二 北海道拓殖銀行ハ五箇年以內ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トスル貸付ヲ爲スコトヲ得

第七條ノ三 北海道拓殖銀行ハ抵當證券ノ賣買ヲ爲スコトヲ得

本法中貸付ニ關スル規定ハ抵當證券ノ買入ニ關シ之ヲ準用ス

第八條第一項中「北海道ニ於ケル市」ノ上ニ「北海道」ヲ、同條第三項中「定期償還ノ方法」ニ依リ「ノ下ニ」又ハ十箇年以內ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ「ヲ加フ

第八條ノ二中「前二條」ヲ「前四條」ニ改ム

第八條ノ三中「同條第四項」ノ下ニ「第七條ノ二」ヲ加フ

第十一條ノ二中「市町村」ノ上ニ「北海道」ヲ加ヘ「前項」ノヲ削リ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ場合ニ於テ北海道拓殖銀行ハ北海道ニ對シテハ内務大臣ニ、市町村其ノ他ノ公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

第十二條第一項中「十倍」ヲ「十五倍」ニ改ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九 國稅徵收法中改正法律案（政府提出）

國稅徵收法中改正法律案 第一讀會

國稅徵收法中改正法律案

第四條ノ五中「地租、營業稅、所得稅、醬油稅」ヲ「所得稅、地租、營業稅、所得稅、醬油稅」ニ改ム

第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

賣却シタル物件抵當證券ヲ發行シタル抵當權ノ目的物ニシテ第三條ノ證明ヲ爲スヘキ抵當證券所持人分明ナラサル場合ニ於テ其ノ代金ヨリ督促手数料、延滞金及滯納處分費ヲ徵シタル殘額カ債權者ニ交付スヘキ債務額及徵收スヘキ税金ニ充タサルトキハ其ノ抵當證券

所持人ニ交付スヘキ金額ハ之ヲ保管ス此ノ場合ニ於テ債權ノ辨濟期限後四月ヲ過クルモ尙其ノ證明ヲ爲ササルトキハ其ノ保管シタル金額ヲ税金ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ抵當證券所持人ニ交付ス物件ノ賣却後二年內ニ其ノ證明ヲ爲ササルトキ亦同シ

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（國務大臣子爵渡邊千冬君登壇）

○國務大臣（子爵渡邊千冬君） 昨今議題トナリマシタル九法案ノ中、抵當證券法案、不動産登記法中改正法律案、民事訴訟法中改正法律案、競賣法中改正法律案及民事訴訟用印紙法中改正法律案、是ダケニ付キマシテ一括シテ提案ノ理由ヲ申述ベタリト存ジマス

我國不動産金融ノ狀況ヲ見マスルニ、不動産ヲ擔保トスル債務ノ總額ハ、昭和三年末ニ於テ六十二億圓ヲ超ユルノ巨額ニ上リテ居ルノデアリマス、而シテ是ガ流動化及資金化ト云フコトハ、我國經濟ノ發達上最モ重大ナル問題デアリマスシテ、是ガ解決ハ社會一般ヨリ非常ニ要望セラレテ居ルノデアリマス、然ルニ我國現在ノ制度ニ於テハ、不動産抵當債權者ガ、自己ノ抵當債權ヲ資金化スル上ニ於キマシテ、有效簡便ナル方法ガ設ケラレテ居ナイ爲ニ、平時ニ於テモ、財界變調ノ際ニ於テモ、常ニ多大ノ不便ヲ感ジテ居ル次第デアリマス、政府ハ茲ニ見ル所ガアリマシテ、抵當證券法ノ制定ニ依リ、抵當證券制度ヲ創設致シマシテ、不動産抵當附債權ノ證券化ヲ圖ルコト、シ、兎角ニ固定シ易イ不動産貸出ニ關スル缺點ヲ除去シ、不動産金融ノ便宜ヲ増進セシメタリト存ジマス

今此制度ノ金融上ノ作用ヲ概略申述ベマスレバ、抵當證券ハ不動産ヲ抵當トスル債權ヲ證券化シタルモノデアリマシテ、大體ニ於テ手形ニ不動産抵當ヲ固著セシメタ形トナルノデアリマス、而シテ此制度ナキ現在

ニ於テハ、一々移轉登記ノ手續ヲ經ナケレバ、不動産上ノ抵當權ノ移轉ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトガ出來ナイノデアリマスガ、抵當證券ニ於キマシテハ、手形ト同様ニ裏書ニ依リテ之ヲ讓渡シマスレバ、第三者ニ對抗シ得ルコト、ナルノデアリマス、斯クテ裏書讓渡ト云フ簡便ナル手段ニ依リマシテ、輾轉スルコトニナルノデアリマスカラ、不動産ノ抵當ノ附イタ債權ガ容易ニ流動シ、隨テ又資金化セラル、ニ都合好クナルト云フ仕組デアアルノデアリマス、之ニ加フルニ右ノ裏書ニハ、一定ノ裏書上ノ責任ガ附著シテ居リマスノデ、人的擔保作用ガ不動産ナリ物的擔保ノ上ニ加ハリ、更ニ流動化及資金化ノ作用ヲ圓滑ナラシムルコトト相成ルノデアリマス

以上ハ抵當證券法ノ大要ノ説明デアリマスガ、本法制定ノ必要ニ付キマシテハ、既ニ金融制度調査會ニ諮問シテ可決セラレタ所デアリマス、而シテ同法ノ制定ニ伴ヒ不動産登記法、民事訴訟法、競賣法及民事訴訟用印紙法ノ改正ヲモ必要トシタノデアリマシテ、ソレモ改正法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒慎重審議速ニ御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 小川政府委員

(政府委員小川郷太郎君登壇)

○政府委員(小川郷太郎君) 只今議題トナリマシタ日本勸業銀行法中改正法律案、農工銀行法中改正法律案及北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ付キマシテ、一括シテ提案ノ理由ヲ申述ベタイト存ジマス

不動産金融ノ圓滑ヲ圖ルコトハ積年ノ問題デアリマシテ、此問題ヲ解決スル爲ニハ、不動産ヲ抵當トスル債權ノ資金化、證券化ヲ行フノ必要ガアリマス、仍テ政府ハ別ニ抵當證券ニ關スル法律案ヲ提案シテ、不動産ヲ抵當トスル債權ノ輾轉ヲ容易ナラシムル制度ヲ設ケントスルコトハ、既ニ司法大臣ヨリ説明サレタ通りデアリマス、此抵當

證券制度ヲ設ケマスト共ニ、不動産金融ノ主タル業務トシテ居リマス日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ヲシテ、抵當證券ヲ賣買シ、又ハ之ヲ質トシテ定期償還貸付ヲ爲スノ途ヲ開キ、又抵當證券トナリ居ラザル不動産抵當債權ニ付キマシテモ、同様ノ貸付ヲ行フコトヲ得セシメテ、是等ノ銀行ヲシテ其機能ヲ十分ニ發揮セタイト考ヘマス、此種ノ業務ヲ新ニ認ムルコトニ依リマシテ、定期償還貸付限度ノ擴張、又ハ債券發行限度ノ擴張ガ必要トナリマスカラ、此點ニ付テモ相當改正ヲ加フルコト、致シマシタ

更ニ現在ニ是等ノ銀行ハ農業者、工業者、又ハ漁業者ニ對シマシテ、十人以上ノ連帶ヲ以テ定期償還ノ方法ニ依ル無抵當ノ貸付ヲ爲スコトヲ認メラレテ居リマスガ、今回は等ノモノニ對シ、新ニ二年賦償還ノ方法ニ依リ、無抵當貸付ヲ認ムルコト、シ、長期低利ノ資金ノ利用ヲ容易ナラシメテ、庶民金融改善ノ一端ニ資シタイト考ヘマス、又農工銀行及北海道拓殖銀行ハ、今日ニ於テハ資力モ相當充實シテ來タノデアリマスカラ、道府縣ニ對スル無抵當貸付ヲ爲スコトヲ認ムルコト、致シマシタ、尙ホ日本銀行ニ於テ管理スル有價證券中、日本勸業銀行發行債券ハ、便宜同行ヲシテ日本銀行ニ代リ是ガ管理ヲ爲サシムルコト、シ、又農工銀行ガ農工債券元利金支拂等ノ爲ニ、他ノ農工銀行ノ代理店トナリ得ルヤウ改正ヲ致シタイト考ヘマス

以上ノ事項ニ關シ、其大綱ニ付キマシテハ金融制度調査會ニ諮問シ、同會ニ於テ慎重審議ノ上可決セラレタノデアリマシテ、茲ニ其趣旨ニ依リ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御協賛アラシコトヲ希望致シマス(拍手)

次ニ議題トナッテ居リマス國稅徵收法中改正法律案ニ付キマシテ、其提案ノ理由ヲ説明致シマス、現行法ニ於キマシテハ、納

稅者ノ財産ノ上ニ抵當權ヲ有シテ居リマス者ガ、國稅ニ對シ先取權ヲ行使シマスニハ、其抵當權ノ設定ガ、國稅ノ納期限ヨリ一箇年以前ニアルコトヲ證明シナケレバナラナイコトニナルコトヲ居リマス、然ルニ今回抵當證券ノ制度ガ出來マシテ、納稅者ノ財産ノ上ニ設定セラレタ場合、證券ガ輾轉シマシテガ發行セラレタ場合、證券ガ輾轉シマシテ其所持人ガ何人デアアルカ判明セズ、隨テ稅務署ガ權利者ニ通知ガ出來ズ、其結果トシテ債權者ガ國稅ニ對シ先取權ヲ行使スル所ノ機會ヲ失フガ如キ場合ヲ生ズルノ虞ガアリマス、斯ノ如キ場合ニハ相當期間ノ猶豫ヲ與ヘ、其權利行使ノ機會ヲ得セシメルノ必要ヲ認メ、茲ニ本案ヲ提出シタ次第デアリマス、尙ホ從來ノ稅法ノ改廢ニ伴ヒマシテ、改正ヲ要スルモノガアリマスノデ、是モ同時ニ改正スルコト、致シマシタ、何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ヲ許シマス、名川侃市君

(名川侃市君登壇)

○名川侃市君 抵當證券法ノ提出ニ付キマシテ、司法大臣ニ質問ヲ致シタイデアリマス其第一ハ、本案ハ土地、建物、土地ニ對スル地上權ヲ目的ト致シマシタル、抵當權其モノ、輾轉ヲ容易ニスル爲ニ、作ッテ法律デアルト云フノデアリマス、所ガ不動産ハ申スマデモナク其土地ノ位置、又土地ノ種類、交通ノ便否、耕作地デアリマスト云フカ云フコトニ依ッテ、價格ニ多大ノ相違ガアルモノデアリマス、隨テ是ハ現今ノ取引界ニ於テ盛ニ取引セラレテ居リ、市場ニ公定相場ヲ持ッテ居ル株式ナド、ハ、其擔保トシテノ取引ニ非常ナ相違ガアルモノデアリマス、故ニ債權ヲ擔保トシテ抵當物ヲ取ルニ付テハ、債權者ハ必ズ其土地ノ實地ニ見テ、具ニ其價格ヲ評定シテ、而モ債權ノ

期間モ普通ノ手形ノ如キ短イモノデアナイノデアリマスカラ、將來ノ財界ノ狀況、價格ノ變動ト云フモノニ付テ考慮ヲ拂ツタニ於テ、其擔保價格ヲ決メルモノデアリマシテ、株式ノ如ク直チニ右カラ左ヘト輾轉ノ出來ルモノデアナイノデアリマス、一例ヲ舉ゲマスレバ、神奈川縣ノ川崎ノ在ナドニ於テハ、水害ノ爲ニ何十町ト云フ田地ガ、登記簿ノ上ニ於テハ立派ニ畑ニナッテ居ル處ガ、五尋六尋ノ海底ニナッテ居ル處ガ澤山アリマス、是等ノ所有者ガ遠隔ノ土地ノ銀行ヘ行ッテ、私ハ東京ノ附近デ是ダケノ地面ヲ持ッテ居ルノデアアルカラ、是デ金ヲ貸シテ吳レト言ウテ、ソレヲ擔保ニシテ金ヲ借りテ、拂ハヌ時ニ抵當權ヲ實行シヨウトシテ行ッテ見ルト、海ノ底デアルト云フノデ、ソレガ詐欺ト云フ事件ニナツタ、或ル一ツノ所有者ノ如キハ、其爲ニ十幾犯ヤツテ、監獄ニ二十年モ入ッテ居ル人間ガアル、斯ノ如クニ不動産ノ擔保ト云フモノハ、決シテ其地目坪數ナドヲ見テ、直チニ擔保ニ取ルコトハ出來ヌモノデアリマス、故ニ此種ノ輾轉ト云フモノハ、決シテ容易ニ出來ルモノデアナイノデアリマス、故ニ現今ノ表示方法デアアル抵當權ノ登記、其登記ヲ切ッテ抵當權ヲ輾轉サセルコトニ於テモ、ソレ程不便ヲ感ズルモノデアナイト我々ハ思フノデアリマス、最モ今日擔保物トシテ取引セラレテ居ル株式、此物ニ付テモ現今ノ法律制度ハ何デアアルカ、之ニ付テハ甚ダ規定ガ不完全デアリマセヌカ、現今株式ノ質權ノ設定ニ付テハ、何等ノ規定ガ法律ニナイノデアアル、如何ナル方法ニ依ッテ質權ノ設定ガ出來ルカト云フコトモ、法律ニ書イテナイノデアアル、故ニ其株式ノ所屬ノ株式會社トシテモ、其株式ガ何人ニ質權ノ設定セラレテアルカト云フコトハ分ラナイノデアアル、隨テ其株式ニ質權ヲ持ッテ居ル者モ、其質權ノ目的物デアアル所ノ株式ノ配當ヲ受取ルコトガ出來ヌト云フコトニ、現今ニ於テ非常ナ

不便ヲ感ジテ居ルノデアル、又此株式ヲ銀行ナドガ擔保ニ取テ、銀行ガ竊盜ニ遭テ其品物ヲ盜マレタ、其株式ガ株安ノ爲ニ輾轉シタ場合ニ於テ、債權者タル銀行ガ其株式ヲ取戻ス所ノ手續モ法律ニ書イテナイ、唯占有回收ノ手續ニ依テ、僅ニ之ヲ取戻スコトガ出來ルト云フコトガ書イテアルニ過ギヌノデアリマスガ、占有回收ノ手續ト云フモノハ、其盜シテ行ク者ガ持テ居ル間ハ取戻サレケレドモ、其盜シタ者ガ他人ニ其株式ヲ讓渡シタ時ハ取リニ行ケナイノデアル、斯ノ如ク盛ニ取引サレテ居ル所ノ株式ノ擔保ニハ、非常ニ不完全ナル法律デアリニ拘ラズ、是等ニ付テハ何等ノ改正ノ實ヲ擧ゲラズシテ、實際ニ於テ之ヲ改正セラレタ所ガ、ソレダケノ實用ノナイ所ノ不動産抵當ニ付テ證券發行ノ方法ヲ執ラレタト云フ、當局ノ其根據ト云フモノハ何處ニアルカト云フコトヲ、第一ニ聞キタイノデアリマス

第二ニ承リタイノハ、我國ノ此抵當權ノ規定ハ、佛蘭西民法ニ則テ出來テ居ルモノデアリマス、而シテ此抵當證券即チ證券抵當ト云フモノハ、獨逸民法ニアル規定デアリマス、佛蘭西民法ニ則テ居ル所ノ、現今日本ノ抵當權ノ規定ニ對シテ、獨逸民法ノ規定ヲ直チニ採テ來テ、證券抵當ノ方法ヲ採用スルト云フコトハ、其規定ノ中ニ於テ色々ト不便ノコトガ出來テ來ルコトと思フノデアリマス、此點ニ付テ當局者ハ如何ナル考ヲ持テオイデニナリマスカ、ソレヲ聞キタイノデアリ

第三ニ承リタイ所ハ、此法案ニ依リマスト云フト、民法ニ規定シテアル抵當權除ノ規定、其規定ヲ證券抵當ニ適用セヌト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、條除ド中シマスノハ、説明スルマデモナク御承知ノ通り、抵當ノ目的物ヲ他人ガ買ツタキニ、其代金ヲ抵當權者ニ拂ヘバ、抵當ヲ消シテ貰ヘルト云フ規定デアリマス、此規

定ハ即チ法律ニ於テ、債權者ガ抵當權ヲ實行シテ競賣ヲ致シマシタトキニハ、其競賣代金ヲ債權者ガ取ルコトニ依テ、其抵當權ハ消滅スルコトニナル、即チ競賣ノ手續ニ依テ抵當物ヲ賣レバ、抵當權ハ消滅スルコトニナル、然ラバ競賣ノ手續ニ依ラズシテ任意賣買デアッテモ、其目的物ヲ賣テ其代金ヲ抵當權者ガ取ツタラバ、其抵當權ハ消滅スルコトニスルト云フコトガ、是ハ理論上當然ノコトデアルト私ハ思フノデアアル、故ニ現行民法ニ於テ其規定ガアルノデアアル、又此條除ノ規定ハ佛蘭西民法ニアッテ、獨逸民法ニナイ規定デアリマス、故ニ獨逸ノ發達シタル法律ナルニ拘ラズ、此條除ノ規定ノナイト云フコトハ、獨逸民法ノ缺點デアルト致シテ、學者及實際家ガ批評シテ居ル所デアアル、其獨逸民法ノ缺點トセラレテ居ル所ノ條除ノ規定ノナイモノヲ、折角日本ノ民法ニアル條除ノ規定ヲ全然適用セヌト云フガ如キ、改惡スル所ノ方法ヲ執ラレル根據ハ、何處ニアルカト云フコトヲ聞キタイノデアリマス、即チ此條除ト云フコトハ、非常ニ土地ノ所有者ノ爲ニ便宜ナル方法デアリマシテ、其土地、建物、ソレヲ大變希望スル人ガアル、是非トモ此土地ヲ自分ガ欲シイト言ウテ希望スル人ガアル、其時ニ於テ之ヲ買ヒマシタ所ガ、條除ノ手續ガアレバ、代金ヲ持ッテ行テ抵當ヲ消シテ貰フコトガ出來ル、條除ノ手續ガナイト云フト、抵當權者ハソレデハイケナイ、私ハ債權全部ヲ拂フニアラザレバ、ドウシテモ此抵當ハ消サヌト云フコトガアル、所ガ目的物ハ債權全部ノ價格ハナイ、一萬圓ノ債權、目的物ハ五千圓シカ價格ガナイト云フコトニ、其土地ヲ買ウタ者ニ一萬圓拂ヘト云フノハ非常ニ酷デアアル、サウ云フ時ニ於テ抵當權者ガ之ヲ競賣致シマシテモ、五千圓シカ取レヌノデアアルカラシテ、任意ニ賣買シタ代金五千圓ヲ拂ツタラバ、其抵當權ヲ消シテヤルコトニスルト云フコトハ、之ヲ折角希

望シテ買ウタ所ノ第三取得者ニ於テ非常ニ便宜デアアル、然ルニ意地悪イ抵當權者ガアッテ、オ前ハ折角買ウタケレドモ、抵當權ハ消シテヤラナイト云フコトデ、競賣セラレマスト云フト、折角買ウタ所ノ此土地、建物ヲ、又人ニ取ラレルト云フコトニナルノデゴザイマスガ故ニ、此條除ノ規定ト云フモノヲ全然廢止致シマスト云フト、不動産ノ賣買ト云フモノハ行ハレナクナル、抵當ノ附イタル土地ノ買手ガナクナル、サウナリマスト云フト、土地ノ所有者ハ此條除ノ規定ガ法律ニナイガ爲ニ、土地ノ賣買ガ出來ナイ、土地ヲ持ッテ居リナガラ、之ヲ處分スルコトガ實際ニ於テ出來ナイト云フヤウナ、非常ニ不便ヲ生ズルコトニナルト思フノデアリマス、斯ノ如キ實際ノ結果ヲ生ズル以上ハ、只今提案者ヨリ説明セラレタ所デモ、且ツ此法案ノ後ニ理由書トシテ附ケラレテ居ル所ニ於テモ、不動産金融ノ圓滑ナラシムル爲ニ本法案ヲ提出スルト云ハレノハ、却テ此法案ノ爲ニ土地ノ所有者ハ、不動産ニ依ッテ處分シテ金ヲ作ルト云フコトガ出來ナクナリマシテ、非常ニ不利益ナル結果ヲ生ズルモノデアルト思フノデアリマス、サウ云フヤウナ次第デアリマシテ、現今ノ經濟界ハ如何デアアルカト申シマスレバ、敢テ現内閣ヲ攻撃スルノデアリマセヌガ、實際ノ結果ガ金解禁ノ御蔭ト云フカ何ト云フカ、非常ニ金解禁ノ爲ニ金ノ價值ハ高クナツタ、一萬圓ノ借金ヲシタ者ガ、金ノ價值ガ高クナツタカラ、一萬五千圓モ拂ハナケレバナラヌヤウナ、現今ノ狀況ニナッテ來テ居ルノデアリマス、經濟界ハ非常ニ不景氣ニナッテ來タ、今日デハ借金シタ者ガ非常ニ困ッテ居ル、安イ錢ヲ借りテ高イ金ヲ拂ハナケレバナラヌト云フコトニナッテ居ルノデアリマスカラ、今日社會ノ輿論ト云フモノハ、成ベク金錢ノ貸借ニ付テハ裁判ヲ延バサユニ、支拂ノ猶豫ノ方法ヲ設ケテ昔ノ德政トマデハ行カズトモ、借金ノ中三

割、四割ノ棒引ヲサスト云フコトガ最も公平デアルト、社會ノ輿論ガ今日ナッテ居ル時代デアリマス、其時代ニ於キマシテ、現行民法ニ於テ債務者ヲ保護シ、土地ノ所有者ヲ保護シテアル立派ナ規定ガアルニ拘ラズ、此規定ヲ全然廢止シテ、債務者ヲ苛メテ、而シテ抵當權者ノ便宜ヲ圖ル、斯ウ云フコトガ時代ニ適應シタル立法デアルト言ヘルデアリマセウカ、世間ノ人ハ現内閣ハ富豪ノ爲ニ便宜ヲ圖リ、金融業者ノ爲ニ便宜ヲ圖ルト云フガ、此法律ヲ出シタ所ヲ見レバ、サウ云フヤウニ見エル、私ハ此點ニ付キマシテ、提案者ニサウデナイカドウカ、吾々ガ得心スルダケノ説明ヲ聞キタイノデアアル、何故ニ條除ノ規定ヲ排除サレタカト云フコトヲ、最も懇切ニ承リタイト思フノデアリマスソレカラ次ニ不動産ノ金融ヲ圓滑ナラシムル爲ニスルト云ハレガ、現行ノ裁判制度ニ於テ果シテ是ガ出來ルカ、出來ヌカト云フコトヲ御尋致シタイノデアリマス、即チ今日抵當權ノ實行ニ依ッテ競賣ノ中立ヲ致シマシテ、是ガ競賣セラレテ、抵當權者ガ金ヲ取ルマデニ、長キハ五年、短クトモ三年ハ掛ル、是ガ現今ノ裁判ノ實情デアアル、サウ云フヤウニ裁判所ソレ自體ガ、權利ノ擁護ニ付テ非常ニ手續ガ遅延致シテ居ル、ソレニ斯ウ云フ法律ヲ拵ヘテ、不動産ノ金融化デアアルナド、何處ヲ押セバソナコトガ言ヘルカ、是ハ司法省ニ於テ先ヅ其裁判所ヲ嚴重ニ監督ヲシテ、早ク此抵當權實行ノ方法ヲ付ケルヤウニナサナリ、コンナ法律ナドヲ拵ヘル必要ハナイ、コンナ法律ヲ御作りニナッテ所ガ、幾ラ輾轉シテモ愈、抵當權ヲ實行スルト云フコトニナレバ、五年モ三年モ掛ルト云フコトデアリタラバ、何人ガ抵當權ヲ讓受ケル者ガアリマセウ、私ハ此點ニ付キ司法省ノ所信ガ聞キタイ、今日ノ抵當權實行ニ對スル社會ノ不便不利ハ非常ナモノデアアル、先日モ私ノ關係シタ事件デアリマスケレドモ、五

マシテモ、其手形ノ信用ト云フモノハ、之ヲ發行シタ人、其支拂人、又ハ裏書人ニ依ッテ、其證券ノ信用ト云フモノハ決マルノデアリマシテ、其信用ノ有無、厚薄ニ依ッテ、其融通性、流通性ト云フモノガ決定セラレルノデアリマスカラ、抵當證券ノミ今名川君ノ指摘セラレタヤウナ不便ガアルノデハナイノデアリマス、況ヤ初ニ抵當證券ヲ請求スル人ハ、其土地ニ付テハ十分ナル知識ヲ持ッテ居リマスガ故ニ、之ニ對シテ金ヲ貸シ、サウシテ之ヲ人ニ譲ルトキハ裏書ヲシテ、自ラ其責任ヲ帶ビルノデアリマスカラ、抵當證券ナルモノハ土地ノ値打ト裏書人ノ信用ト、兩方ノ合ハサツタモノニ依ッテ融通性ガ行ハレルノデアリマスカラ、抵當證券ニ

吾ハ考ヘナイノデアリマス、第二以下濫除
ノ問題、競賣其他ノコトハ、政府委員カラ
申上ゲタ方ガ明瞭デアラウト思ヒマスカ
ラ、政府委員カラ申上ゲマス
〔政府委員長島毅君登壇〕
○政府委員〔長島毅君〕 大體私カラ御答申
上ゲタイト思ヒマス
一ノ點ハ大臣ヨリ御答ニナリマシタカ
カ

ラ、一ノ點カヲ御答申シタイト思ヒマス
二ノ點ハ、名川代議士ノ仰セノ如ク、我
ガ民法ハ大體抵當權ニ付テハ佛蘭西法ノ主
義ニ依^ッテ居リマスノデ、登記ノ方ハ獨逸法
ノ主義ニ依^ッテ居リマス、大變ニ此點ハ調
和ノシ惡イ點ガアルノデアリマス、ソレデ
其點ハ抵當證券法ノ際ニモ非常ニ苦心ヲ致
シマシテ、何トカソレニ付テハ調和ノ出來
ルヤウナ方法ヲ講ジテ居ル積リデアリマ
ス、即チ獨逸法ノ登記ニ於キマシテハ、御
承知ノヤウニ公信主義デアリマスケレド
モ、我ガ民法ハ公示主義ニ依^ッテ居リマス
ノ、非常ニ此點ガ抵當證券ノ發行ノ上ニ困
難ノ問題ヲ起シマシタノデ、之ニ付キマシ
テハ異議ノ手續ヲ十分ニ認メテ、抵當證券
ノ流通ニ支障ノナイヤウニ致シタ積リデア

リマス
ソレカラ其次ハ濫除ノ點デアリマシテ、
是ハ洵ニ名川代議士ノ御説ハ御尤デアリマ
シテ、名川代議士モ多年此方面ニハ御經驗
ノオアリニナルコトデアリマスガ、御承知
ノ如クニ濫除ハ非常ニ此抵當權ノ執行ノ上
ニモ、色々ト手續上不便ヲ來シマス、ソミ
ナラズ實際ニ於テ、第三取得者ノ居所ガ分
ラナイヤウナコトガアリマシタリ何カ致シ
マシテ、非常ニ抵當權ノ執行ノ上ニ困難ヲ
來シテ居ルデアリマス、而シテ第三取得
者ノ方カラ申シマシテモ、結局ハ賣レタ、
相當ナ價值ヲ買取ラネバナラナイデアリ
マスカラ、左程ニ實益モ少イヤウデアリマ
ス、現ニ御承知デアラウト思ヒマスガ、濫
除ニ依リテ事件ガ旨ク處理サレタト云フコ
トハ、餘リ濫山ナイヤウデアリマスカラ、
此際流通ヲ非常ニ圓滑ナラシムルコトヲ要
スル抵當證券ニ付テハ、セメテ此濫除ヲ除
ケタナラバドウデアラウカト云フコトデ、
除ケタノデアリマス

第四デアリマシタカ、其次ノ競賣ノ遲延
ノ點ハ、是ハ裁判所トシテモ十分ニ努力ハ
致シテ居リマスガ、何分ニモ現行ノ競賣法
ノ手續ガ非常ニ複雑デアリマシテ、債務者
ニ濫山ノ異議デアルトカ、抗告ガ出來ルヤウ
ニナッテ居ル結果、甚ダ圓滑ニ進ンデ居ラヌ
コトハ、洵ニ遺憾トスル點デアリマス、是ハ
折角競賣法竝ニ強制執行法ノ改正ヲ計畫致
シテ居リマスノデ、サウ云フコトニ依リテ漸
次救済サレルコト、思ヒマスガ、尙ホ今後
一層此點ニ付テハ注意ヲ致シタイト思ヒテ
居リマス
其次ニハ裏書人ノ償還ノ問題デアリマス
ガ、成程裏書人ハ非常ニ重大ナル責任ヲ負
フコトニナルト思ヒマス、仰セノ如クニ手
形ノ裏書人ハ、經濟上カラ申セバ其償還ノ
責任ガ一層重イコト、存ジマスガ、此責任
ヲ重ク致シマセスト、ドウシテモ抵當證券
ノ流通ト云フコトガ、完全ニ行ハレナイノ

デアリマス、第一ノ御問ニアリマシタヤウ
ニ、土地ソレ自身ノ價格ト云フモノガ、土
地ヲ實際見ナイト分ラナイデアリマスカ
ラ、其土地ノ價格ヲ見テ一々之ヲ取引ヲシ
テ居ルト云フノデハ、抵當證券流通ニ支障
ヲ來シマスノデ、ドウ致シマシテモ裏書人
ノ責任ト云フコトヲ十分ニ重カラシメナケ
レバ、抵當證券ノ流通ガ出來ナイデアリ
マスカラ、是ハ本法ノ規定トシテハ止ムヲ
得ナイコトニナルデアリマス

ソレカラ其次ハ分譲濫渡ノ禁止ノ事ニ付
テノ御尋デアリマスガ、是ハ本法ニモアリ
マス通りニ、抵當附ノ債權ガ抵當證券ニ化
體致サレマスノデアリマスカラ、一ツノ
證券ニ化體サレルデアリマスカラ、結局
是ハ分譲禁止ヲ致シマセスト、抵當證券ノ
趣旨ニ副ハヌコトニナルデアリマス、所
謂有價證券化ト云フコトニ適合致シマセヌ
カラ、斯ウ云フコトニシマシタノデアリマ
ス

ソレカラ抵當權ノ一部讓渡ハ、是ハ抵當
證券ヲ發行シテ居リマスル以上ノ出來ナイ
デアリマス、唯併ナガラ裏書人、所持人
等全員ノ同意ニ依リマシテ、抵當證券ヲ二
枚ニスル、或ハ三枚ニスルト云フコトニ致
シマスレバ、之ニ伴ヒマシテ抵當權ノ一部
讓渡モ出來ルコトニナルコト、存ジマス

其次ハ民法ノ百七十七條ヲ除外シタカト
云フ御尋デアリマスガ、抵當證券發行後
ニ於キマシテ、抵當權ノ流通ノ問題ニ付テ
申セバ、是ハ百七十七條ヲ除外致シテ居リ
マス、併ナガラ抵當證券發行前ノ所有權ニ
付テハ、何處マデモ登記ガナケレバナラス
コトニナッテ居ルデアリマス、尙ホ抵當證
券ノ内容ノ變更ニ付キマシテハ、是ハ登記
ヲ同時ニ變更シナケレバナラスコトニナリ
マスカラ、此點ダケニ付テハ百七十七條ノ
規定ヲ除外シテ居ラナイコトニナルデア
リマス
其次ノ御尋デアリマスガ、抵當證券ヲ一

且發行シタ以上ハ、ソレヲ取消スコトガ出
來ルカ、出來ヌカト云フ御尋デアリマスガ、
是モ詰リ裏書人並ニ所持人ノ同意ガアリマ
スレバ、取消スコトハ出來ルデアリマス
ソレカラ最後ノ御尋ハ、不動産所有權自
體ニ付テ、地券ノヤウナモノヲ發行シタラ
ドウデアアルカト云フ御尋デアリマスガ、是
ハ仰セノ如ク斯ク致シマスレバ、不動産ノ
流通性ハ、徹底的ニ便宜ノヤウニ無論ナリ
マスノデアリマスガ、併ナガラ兎ニ獨我ガ
民法ハ不動産ニ付テ登記ノ根本主義ヲ採
テ居リマシテ、此根本主義マデヲ變改致シ
マスコトハ、法律制度ノ非常ナ變更ニナリ
マスノデ、一寸急ニハ出來ナイコトデアリ
マスカラ、其點ハ差控エタ次第デアリマス、
答辯ガ甚ダ簡單デアルカモ存ジマセヌガ、
名川代議士ハ十分ニ御専門ノ方デオイデニ
ナリマスノデ、極ク簡單ニ御答致シマシタ
(拍手)

〔名川侃君登壇〕

○名川侃市君 只今提案者及政府委員ヨリ
答辯ガアリマシタガ、其中デ重ネテ御尋致
シテ置キタイコトガ一點アルデアリマス、
ソレハ民法濫除ノ規定ノ排斥デアリマス
ガ、只今長島政府委員ヨリ、是ハ實際ニ於
テ濫除ト云フモノハ多ク行ハレテ居ナイ、
且ウ其濫除ト云フコトニ付テ、此規定ガア
ル爲ニ抵當權ノ實行ニ色々ト煩瑣ナル手續
ガ要ルカラ之ヲ排除シタ、斯ウ云フ御答辯
デゴザイマシタガ、今日此濫除ノ規定ヲア
ル爲ニ、抵當權者ガ迷惑シテ居ルト云フノ
ハ、實際ノ事實デアリマス、併ナガラ是
ハ私ハ決シテ法律其物ノ罪デハナイト想フ
デアリマス、裁判所ニ於テモ一部分ノ罪
ガアリ、即チ民法ノ所謂第三取得者ト云フ
ノハ、本登記ヲシタル第三取得者デナト
モ、假登記ノ者デモヤハリ第三取得者ト見
ルト云フヤウナル大審院ガ判例ヲ下シマシ
タガ爲ニ、其抵當權ノ實行ヲ妨ゲンストスル
一部ノ三百ナドガ、登記料ノ要ラナイ所ノ

假登記ヲ致シテ、此濫除ト云フ手續ニ隱レ
テ、色々抵當權者ヲ苛メテ居ルニ過ギナイノ
デアリマス、是ハ私ハ大審院ノ判例ガ聊カ
當ヲ失シテ居ルモノデハナカラウカト思
フ、本登記ヲスルマデハ第三取得者トハ言
ヘナイデアリマスカラ、判例其モノガ正
シキニ還リマスニ於テハ、此濫除ガアル爲
ニ抵當權者ガ困ルト云フコトハナイデア
リマス、而シテ此濫除ト云フモノハ、實際
ニ於テ多ク行ハレテ居ナイト仰セラレマス
ガ、私ノ少ナキ經驗ニ依リマスト、此濫除
ト云フモノハ、相當濫山行ハレテ居ルト思
フデアリマス、司法省ニ於テ其點ニ付テ
統計デモオアリデアリマシタラバ、今日
デナタトモ宜シウゴザイマスカラ、一ツ預
載致シタイト思ヒマス、他ハ又他ノ機會ニ
於テ聽クコトニ致シマス

○議長(藤澤幾之輔君) 政府ノ答辯ガアリ
マセヌ 上田孝吉君

〔上田孝吉君登壇〕

○上田孝吉君 私ハ本案ニ付キマシテハ、
三ツノ點ニ付テ極ク簡單ニ質問ヲ致シタイ
デアリマス
第一ハ、本案提案ノ根本ノ觀念デアリマ
ス、只今提案者カラ御説明ニナリマシタ點、
竝ニ其理由書ヲ見マス、我國ノ經濟及
金融ノ狀況ニ鑑ミ不動産金融ノ圓滑ナラシ
ムル爲ニ抵當證券制度ヲ創設シマス、アル
デアリマス、此御説明ニ依リマスト、單
ニ抵當債權者ニ對スル金融狀態ヲ圓滑ナラ
シムル爲デアルカノ如クニ見エルトデアリ
マス、然ルニ方今社會ノ進歩ニ伴フテ唱道
セラレテ居リマスモノハ、不動産ノ資金化
ト云フコトデアリマス、特ニ我國現今ノ狀
況ニ於キマシテハ、多クノ土地ヲ有シ、家
屋ヲ持ッテ居リマシテモ、其地代ヲ徵收スル
上ニ於テ、其家賃ヲ取立テル上ニ於テ、種
種困難ナル狀況デアリマス、是等困難ナル
狀況ニアリマスニ拘ラズ、他ノ一面ニ於テ
ハ、其土地ヲ相當將來ニ於テ尙ホ有效ナラ

シムル爲ニ於テ、或ハ其家屋ヲ修繕スル必
要上、更ニ又ソレ等ニ對シマス公租公課ニ
依リマシテ、折角多クノ不動産ヲ有シナガ
ラ、名實相伴ハザルノガ現在ノ實情デアリ
マス、是等ノ點ヲ顧ミル時ニ於キマシテ、
社會ノ進歩ニ伴フテ、而モ今日ノ經濟窮迫
ノ狀態ニ鑑ミマシテ、是等不動産ニ對スル
金融狀態ヲ圓滑ナラシメル、即チ不動産ヲ
資金化スルコト云フコトガ、或ハ最モ適切ナ
ル現在ノ狀態デハナイカト私ハ考ヘルノデ
アリマス、然ルニモ拘ラズ、本案ハ單ニ其
一部ノ抵當權ニ對シマシテ證券ヲ發行シテ、
唯其抵當權其モノ、金融ヲ圓滑ナラシメ
ル、即チ言換ヘマスナラバ、金ヲ貸シテ居
ル者、金融業者ノミヲ保護致シマシテ、其
物ヲ持ッテ居リマス者自體ニ對シマス保護
政策方何等含マレテ居ナイコトヲ、私ハ遺
憾ニ考ヘルノデアリマス（拍手）此點ニ付テ
ハ先程名川君方第十點ノ質問ト致サレマシ
テ、少シ其一部ニ觸レテ居ラレマスケレド
モ、政府當局ノ之ニ對シマス徹底的ノ御答
辯ヲ缺イテ居ッタノデアリマス、然ルニ拘ラ
ズ此第一點程、此法律案ニ對シマス根本
ノ觀念ニ於テ、必要ナモノハナイト私ハ考
ヘル、仍テ政府當局ニ於キマシテ、此法律
案ハ不動産資金化ノ少ナクトモ前提トシテ
御出シニナツタモノデアルカドウカ、單ニ
此抵當權者ノミヲ保護スル意味ニ於テ御出
シニナツタモノデアルカ、ドウカト云フコト
ヲ御伺シタイ、最近ニ於キマシテ政府當局、
濱口内閣ノ諸公ハ、常ニ社會ノ進化ニ伴ヒマ
シテ、種々立法スベキ事柄ヲ、唯自己ノ宣
傳ニ依ッテ囁著センガ爲ニ、此五十九議會ニ
於キマシテ提案サレマシタ法律案ヲ見マシ
テモ、悉ク微溫的デアリマス、或ハ之ヲ小
作法ニ於テ見マシテモ、米穀法ニ於テ見マ
シテモ、更ニ又刑事補償法案等ニ於テ見マ
シテモ、唯世間ヲ囁著シ、彌縫スルガ爲ニ、
不徹底ナルモノヲ出シテ世ヲ欺カントシテ
居ル傾向ガ多イノデアリマス、本案モ亦或

ハ斯ノ如キ種類ニ類セザルヤヲ私ハ非常ニ
恐レマスガ故ニ、此點ニ付テ政府當局ノ最モ
詳細ナル御説明ヲ願ヒタイノデアリマス
第二ノ私ノ質問ハ、此不動産ニ對シマシテ
利害關係ヲ持ッテ居ル者ヲ、本案ノ立法ニ對
シテ考慮サレテ居ルカドウカト云フコトデ
アリマス、諸君、今日既ニ土地、家屋、斯
ウ云フヤウナ不動産ニ對シマシテ、此不動
產ノ所有權ハ御存ジノ如ク其過去ニ於キマ
シテハ、是ハ絕對物權、完全物權デアリマ
シテ、他ヨリ制肘或ハ拘束サレルコトヲ非
常ニ嫌ハタモノデアリマスケレドモ、其後
文化ノ進歩ニ從ヒマシテ、種々周圍ノ事情
ガ此處ニ絡リテ參リマシタ關係上、此完全物
權ノ性質ヲ有シテ居ルベキ所ノ不動産ノ所
有權ニ對シマシテ、或ハ貸借債ト云ヒ、或
ハ地上權ト云ヒ、色々ノ場合ニ於テ多クノ
制限ヲ蒙ッテ居ルノデアリマス、特ニ此不動
產ニ對シテ貸借債ヲ爲シテ居ル、土地ヲ借
リ或ハ家屋ヲ借りテ居リマスル者ガ、其所
有者方何人デアアルカト云フコトハ、其賃
借人ニ取リマシテハ最重要ナ事柄デアリ
マス、而シテ此賃借人方何人デアアルカ、地
主方何人デアアルカト云フ此重要ナ要件ニ對
シテ、本件ノ如クニ此抵當權利者ガ、此所
有權ノ移轉ニ依ッテ轉讓致シマスル場合ニ
於テハ——過去ニ於テモ勿論抵當權ノ移轉
ハ出來マスケレドモ、從來ニ於キマスル
抵當權ノ移轉ニ付テハ、尙ホ相當ノ手續ヲ
要シタニモ拘ラズ、本案ノ如クニ此證券ノ
裏書ニ依ッテ、容易ニ轉讓サレマスル場合ニ
於キマシテハ、其所有者方何人デアアルカト
云フコトニ對シマシテハ、賃借人ハ洵ニ迷フ
ノデアリマス、賃借人ガ非常ニ迷フ結果ヲ
生ズルノデアリマス、此證券ノ所有者方變
リ、總テソレガ競賣セラレマスルコトハ、
總テ所有者ガ變ル結果ニナリマス、爲ニ賃
借人ニ影響ヲ及ボス所、亦多大ナルモノガ
アル、仍テ政府當局ニ於キマシテハ、此不
動產ニ對シマス利害關係人ト云フコトニ

御考ヲ御及ボシニナツタカドウカ、又此點ニ
付テ考慮セラレタモノデアルト致シマスル
ナラバ、此法律案ノドノ條項ニサウ云フコ
トガ現レテ居ルカト云フコトヲ、御伺致シ
タイノデアリマス
第三ニ私ハ御伺致シタイノハ、此立法ノ
基本解釋デアリマス、即チ先程名川君カラ
モ申サレマシタ如ク、我國ノ抵當權其モ
ノハ、佛蘭西法ヨリ解釋ヲシテ來テ居ルノ
デアリマスルガ、今日此抵當權ニ付キマシ
テ、從來質權ト相對立シテ來テ居ッタノデ
アリマス、我國ニ於キマシテハ古クカラ、
大寶令時代、鎌倉、徳川時代ニ至リマシテ
モ、常ニ此質權方根本デアリマシテ、質權
カラ次イデ抵當ノ觀念ガ來タモノデアリマ
ス、斯ノ如キ狀態ニ於テ、抵當權ガ發達シ
テ來テ居リマスル時ニ於テ、此抵當權ハ申
スマデモナク、是ハ擔保物權デアリ、他物
權デアリマス、即チ其不動産ニ對シマスル
從タル權利デアリマス、然ル所此法案ニ依
リマシテ、茲ニ抵當證券ガ發行セラレマシ
タ場合ニ於テ、此抵當證券ハ一種ノ有價證
券トシテ取扱ハレルモノデアナイカト私ハ
考ヘマス、併ナガラ此抵當證券ハ有價證券
デアリマシテモ、從來ニ於キマスル手形ヤ、
或ハ株券ヤ、サウ云フヤウナモノト、非常
ニ趣キ異ニ致シテ居リマスコトハ、申スマデ
モナク手形ノ如キハ即チ對人信用、其振出
人、引受人、裏書人ノ信用ニ依ッテ轉讓スル
モノデアリマスケレドモ、此抵當證券ハ寧
ロ其抵當權自體、即チ其不動産其モノヲ主
ナル信用ト致シマシテ、サウシテ先程政府
委員カラモ御説明ガアリマシタガ、之ニ更
ニ其裏書人ノ信用ヲ加味スルモノデアルト
云フコトヲ言ッテ居ラレノデアリマス、仍
テ私ガ此法の基本ノ解釋ト致シマシテ御伺
ヲ致シタイノハ、此抵當證券ハ、即チ今マデ
ノ有價證券ト同ジ觀念ヲ以テ解釋シテ宜イ
カドウカ、サウデナクシテ、ヤハリ從來ノ
私等ガ解釋シテ居リヤウニ、抵當債權其モ

ノ、即チ他物權其モノニ對シマスル從タル
權利ノ移轉デアルト考ヘテ差支ナイノデア
ルカドウカ、萬一是ガ其物權ヲ從トシテ解
釋サレタモノデアリマス場合ニ於テハ、先
程名川君カラ御質問ガアツタヤウナ問題ガ
起ッテ來ル、即チ抵當權ヲ設定スル場合ニ於
テ、其債權者ガ其物ガ價值ガアルカドウ
カ、其物ハ何處ニ在ッテ、ドウ云フ地位、ド
ウ云フ狀況ニ在ッテ、サウシテ之ニ對シテ金
ヲ貸スベキ價值ガアルカドウカト云フコト
ガ、最モ大切ナ問題デアリマス、然ルニ此
抵當證券其モノガ、從來ノ所謂他物權ノ觀
念ニ依ッテ發行サレタモノデアルト致シマ
シタナラバ、之ヲ轉讓致シマスコトハ、洵
ニ其債權者ニ取ッテ危險ヲ與ヘルノデアリ
マス、仍テ此場合ニ於テハ、或ハ此抵當證
券ヲ交換スルヤウナ、即チ其物ノ價值ヲ定
メルヤウナツノ方法、或ハ交換所ト申シ
マスカ、或ハ取引所ト申シマスカ、紹介所
ト云フカ、兎ニ角何等カノ名目ノ下ニ、一
ツノ相場ヲ定メル所ノ機關ヲ必要トシナイ
カドウカト云フコトヲ、私ハ御伺致シタイ
ノデアリマス
私ハ此三ツノ點ニ付キマシテ、當局ノ最
モ明確ナル答辯ヲ求メマス（拍手）
○議長（藤澤幾之輔君） 渡邊司法大臣
（國務大臣子爵渡邊千冬君登壇）
○國務大臣（子爵渡邊千冬君） 上田君ノ御
質問ニ御答致シマス
第一ノ御質問ハ、此抵當證券ノ方法ハ、
其第一ノ債權者ヲ保護スル爲ノ規定デア
テ、金ヲ借ル方ノ側カラ言ヘバ、何モ利益
ヲ得ルコトハ出來ナイ、即チ金ヲ借ル人ガ
自分ノ持ッテ居ル土地ノ資金化スルニハ、
此抵當證券法ニ依ッテハ利益ヲ得ルコトガ
出來ナイデハナイカ、斯ウ云フヤウナ御質
問デアッタト思ヒマス、是ハ私ハサウデナ
イト思フノデアリマス、上田君ハ、是ハ土
地ヲ持ッテ居ル者ハ、何モ利益シナイト言ハ
レマスケレドモ、今日ノ現狀ニ於キマシテ

ハ、不動産ノ金融ト云フモノハ、極メテ固定シテ居ルノデアリマシテ、一度不動産ヲ抵押シテ金ヲ貸付ケマスと云フト、其回收ガムツカシイノデアリマシテ、隨テ不動産ヲ抵押シテ金ヲ貸シタ人ハ、再ビ他ノ土地ニ對シテ金ヲ貸ス餘裕ガ無クナリマシマフノデアリマス、是ハドウ云フ譯デアリカト云フト、初ニ金ヲ貸シタ人ガ其債權ガ固定セラレテ居ルカラデアリマス、併ナガラ其初ニ土地ヲ抵押ニ取テ金ヲ貸シタ其債權利ト云フモノガ證券化セラレテ、流通致シマスナラバ、茲ニ新シキ資金ト云フモノガ出來テ來ルノデアリマスカラ、資本ト云フモノハ又土地ニ投下セラル、金ニナルノデアリマス、斯ノ如クニシテハ資金化ノ前提デアリカト言ハレノデアリマスケレドモ、私ハ先刻モ申シマシタ通り、此抵押證券ノ發行ニ依テ、直チニ土地ト云フモノガ資金化セラレルト申シテモ、差支ナイと思フテ居ルノデアリマス

君「第三ノ質問ハ、詰リ此抵押證券法ノ法的基本解釋ヲ聞イテ居ルノデアリマス、有價證券トシテ、何ノ有價證券ト云フコトニナルカ」ト答フソレデハ

第三ハ、普通ノ有價證券、普通ノ手形ト違フコトガアルカドウカ、サウ云フヤウナ御質問ト思ヒマスガ、是ハ私ハ先刻名川君ノ御質問ニ對シテ申上ゲマシタ通り、抵押ノ附イテ居ル所ノ債權ヲ證券化致シタモノデアリマシテ、普通ノ手形ハ當リ前ノ場合ニハ、唯振出人、發行人及ビ裏書人ノ信用ニ依テ、流通致シテ居ルノデアリマスケレドモ、此抵押證券ノ場合ニハ發行者、ソレガ他人ノ手ニ渡レバ、裏書人ノ信用及ビ其土地ノ價格ト云フモノガ、其手形ノ信用ヲ増シ、又流通性ト云フモノヲ、ソコニ形作テ居ルノデアリマシテ、サウ云フ相違ハ、普通ノ手形又ハ證券トハ違フト言ヘバ、違フ點ガアルノデアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

〔上田孝吉君登壇〕

○上田孝吉君 只今提案者ノ御説明ニ對シマシテ、尙ホ細微ニ質問ヲ致シタイ點モアリマスガ、又他日ノ機會ニ譲リマス、唯私ノ質問致シマシタ第一點ハ、詰リ抵押證券ノ基本解釋ヲ御尋致シタノデアリマス、詰リ此抵押證券ハ、從來ノ手形或ハ株券ト同ジヤウナ意義ヲ持ッテ居ル有價證券デアルカドウカ、又サウデナクシテ、ヤハリ一種ノ抵押權其モノニ、斯ウ云フヤウナ融通性ヲ附ケタ所謂有價證券、詰リ物權其モノニ重キヲ置カレタ有價證券デアルカドウカト云フ、其根本ノ區別ヲ御聞キシテ居ルニ拘ラズ、政府當局ノ御説明ハ洵ニ曖昧デアリマス、ノミナラズ私ガ最後ニ特ニ御聞キ致シタイト思ヒマシタコトハ、此抵押證券其モノハ、少クモ普通ノ手形ト違ヒマシテ、不動産自體ニ重キヲ置イタ所ノ證券デアルコトハ論ヲ俟タナイ、然ラバ此證券ノ價值ト云フモノハ、總テ其不動産ガ如何ナル價

〔政府委員小川郷太郎君登壇〕

○政府委員(小川郷太郎君) 只今御質問ノ中ニ、不動産ノ價格ヲ一定スルヤウナ、何カノ施設ハナイカト云フヤウナ意味ノ御質問ガアリマシタガ、之ニ對シテ不動産取引所ト云フ御話モアリマシタガ、不動産取引所ニ付テモ、色々考究ハシテ見マシタガ、今政府ハ之ニ對シテ一定ノ考ヲ持ッテ居リマセヌ、サウ云フモノヲ設ケルト云フ考ハ持ッテ居リマセヌ

○議長(藤澤幾之輔君)

〔板谷順助君登壇〕 板谷順助君

○板谷順助君

只今議題トナッテ居リマスル法律案ノ中ノ、主タル抵押證券法案ニ付キマシテハ、同僚ヨリ質問サレタル事デアリマスカラ、私ハ之ニ關聯シテ居ル日程第八、北海道拓殖銀行法中改正法律案ニ對シテ、政府ノ所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、改正ノ問題ハ極メテ簡單デアル、即チ抵押證券法ガ實施サレタ場合ニ於テ、其質ヲ取ッテ貸ス或ハ賣買スルト云フ程度デ

アッテ、問題ハ極メテ簡單デアリマスガ、其提案ノ理由ト致シマシテ、不動産金融ノ方法ヲ圓滑ニシテ、其機能ヲ一層發揮スル、此問題ハ北海道ニ取ッテハ重大ナ問題デアリマスカラ、私ハ其根本方針ニ付テ承リタイと思フノデアリマス

現在北海道ノ拓殖銀行ハ、御承知ノ通り北海道並ニ樺太ニ於ケル所ノ唯一ノ特殊銀行デアリマシテ、而シテ拓殖政策ノ上ニ於テ重大ナル關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、然ルニ其規模ガ極メテ狭少デアッテ、何等拓殖ノ趣旨ニ副フテ居ラス、ソコデ吾々ハ從來同志ト共ニ業務ノ發展或ハ權限ノ擴張ニ付キマシテ、色々努力ヲシテ參リマシタケレドモ、今日迄其實現ヲ見ルコトガ出來ナカッタコトハ、非常ニ遺憾ニ存ジテ居ル次第デアリマス、現在北海道ノ不動産ハ約五十億圓ト推定サレテ居ルノデアリマスガ、拓殖銀行ナルモノノ狀態ハドウデアルカ、拓殖地ニ於ケル所ノ唯一ノ不動産金融機關デアル所ノ拓殖銀行ナルモノハ、其資本金ガ僅ニ千二百五十萬圓デアッテ、債券ノ發行額ハ十倍ニ限ラレテ居ル、現在ニ於テハ殆ド其債券ニ對スル一億二百七十五萬圓、制限ニ達シテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、既ニ行詰リヲ生ジテ居ルヤウナ有様デアアル、斯ウ云フコトデハ、將來北海道ノ發展ヲ圖ル上ニ於テ、金融機關ニ於テ非常ニ缺陷ガアルカラ、政府ト致シマシテハ、勸業銀行ト同様ニ債券ノ發行額ヲ十五倍ニ増加サスル、之ニ付テノ考ガアルカドウカ、更ニ又現在ノ低利資金ハ、債券ノ發行額ノ約半分、即チ五千萬圓程度ヲ融通サレテ居ルノデアリマスガ、只今申上ゲマシタ通り、債券發行額ヲ増加スルト同時ニ、低利資金ヲ増加シテ、北海道ニ於ケル所ノ金融ノ圓滑ヲ圖ル意思アリヤ否ヤ、更ニ現在ノ北海道拓殖銀行ニ於ケル最高ノ認可歩合ハ八分六厘トナッテ居ル、勸業銀行カラ見ルト云フト一步高イ、斯ウ云フ高イ金利デアリマシテハ、

例へば農村ニ致シマシテモ、商工業者ニ致シマシテモ、何ノ仕事ヲシテモ引合フモノデハナイ、デアルカラシテ勸業銀行ト同様ニ、此最高ノ歩合ヲ制限スルノ意思アリヤ否ヤ、併ナガラ此問題ヲ解決スル上ニ於キマシテハ、先ツ第一ニ勸業銀行ト同様ニ看板ガ良クナケレバイカヌ、信用ガ伴ハナケレバイカヌノデアル、ソコデ現在拓殖銀行トシテハ、債券發行ノ上ニ於キマシテ、非常ナ不利ガアルノデアリマスカラ、最近ニ於テ政府ガ興業銀行ニ對シテ援助シテ居ルト同様ニ、特殊ノ權利ヲ與ヘテ保護改善スル意思アリヤ否ヤ、先ツ第一ニ此三點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス

更ニ北海道ノ拓殖計畫ニ對シマシテ、重大ナル關係ガアリマス所ノ此金融問題、此金融問題ニ付キマシテ、現在ノ拓殖計畫ナルモノハ非常ナ行詰リヲ生ジテ居ル、北海道ノ拓殖計畫ナルモノハ非常ナル所ノ行詰リヲ生ジテ居ル、或ル論者ハ寧ろ拓殖事業ヲ行政官更ニヤラセルコトヲ止メテ、拓殖銀行ノ權限ヲ擴張シテヤラセル方ガ寧ろ效果ガアル、斯ウ云フ議論モアルノデアリマスカラ、私ハ此拓殖計畫ニ對スル根本方針ニ付テ、此席ニ於テ質問スルノ御許シヲ願ヒタイト思フノデアリマス、多數ノ諸君ハ北海道ハ植民地デアル、必ズ國家ヨリ非常ナル恩恵ヲ受ケテ居ルコトデアラウト考ヘテ居ルデアラウケレドモ、實際ハサウデヤナイ、明治二年開拓使ヲ置カレテ以來、既ニ六十餘年ニナルノデアリマスガ、成程國費ヲ投ジタル金額ハ八億三千五百萬圓デアアルノモ事實デアリマスガ、一面ニ於テ吾々北海道民ガ租稅ヲ納メタル金額ハ八億四千五百萬圓、差引國家ガ千萬圓儲ケテ居ルト云フ計算ニナッテ居ルノデアリマシテ、北海道ト致シマシテハ、國家ノ恩恵ヲ受ケテ居ルコトハ極メテ薄イノデアリマス、併ナガラ此拓殖計畫ナルモノハ、我國ノ人口、食糧問題ヲ解決センガ爲ニ、國策トシテ樹立

サレタモノデアル、デアルカラシテ此拓殖計畫ノ遂行ニ付キマシテハ、政友會タリト雖モ、民政黨ト雖モ、政黨政派ヲ超越シテ此問題ヲ解決セバナラヌト云フコトヲ、吾々ハ常ニ考ヘテ居ルノデアリマス(拍手)所ガ現在北海道ニ於ケル所ノ狀態ハドウナッテ居ルカ、實施以來既ニ五箇年經過シテ居ル、然ルニ拓殖ハ遅々トシテ更ニ振ハズ、殊ニ民政黨内閣トナッテ、豫算ヲ三たび變更縮小致シマシテ、其結果現在ノ北海道ノ拓殖計畫ナルモノハ、非常ナ一大危機ニ直面致シテ居ルノデアリマス(拍手)果シテ其原因ハ何處ニアルカ、由來民政黨ノ諸君ハ、年中宣傳ニ浮身ヲ要シテ、其時々ノ便利主義ニ依ッテ、常ニ原論ト結論ト一致シナイト云フコトヲ、私ハ非常ニ遺憾ニ存ズルノデアリマス(拍手)論ヨリ證據、北海道拓殖計畫ニ對スル民政黨ノ態度ナルモノガ、如實鮮明ニ之ヲ物語テ居ルノデアリマス(拍手)ソコデ私ハ、安達内務大臣ハオイデニナラヌケレドモ、同氏ノ御話ニナッタコトハ、民政黨ノ代表意見デアルト考ヘルガ故ニ、此席ニ於テ御話スルノデアアルガ、昭和三年民政黨ノ總務トシテ安達氏ガ北海道ニ於テ御演說ニナッタコトガアル、其際私ハ其演說ヲ拜聴シタ一人デアアルガ、演說ノ要旨ニ、獨逸ノ「ゾルフ」大使ノ御話ヲ引用サレタノデアリマス、大使曰ク、安達サン、日本ノ人口、食糧問題ハ何モ心配スル必要ハアリマセス、私ハ北海道ヲ視察シテ參ッタルデアリマスガ、アノ廣漠タル所ノ原野、アノ廣イ所ノ沃野ニ於テハ、マダマダ日本ノ人口、食糧問題ヲ解決スルニハ十分デアアル、此話ニ對シテ自分共鳴スル一人デアアルト安達サンハ仰シヤッタノデアアル、苟モ一國ノ責任アル政治家ガ、外國人ノ話ヲ聽イテ共鳴スルナド、云フ、ソナナ馬鹿氣タコトガアラウトハ思ハヌケレドモ、兎ニモ角ニモ北海道ニ同情サレタコトニ付キマシテハ、吾々ハ心竊ニ喜ンデ居ッ

ノデアリマス

ノデアリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○板谷順助君(續) 然ルニ現在ノ北海道ノ狀態ハドウナッテ居ルカ、御承知ノ通り此北海道ノ拓殖計畫ナルモノハ、憲政會若槻内閣ノ當時ニ於テ立案確定サレタノデアリマシテ、即チ自足自給主義、北海道ニ於ケル所ノ一般會計ノ歲出入ノ超過收入額ヲ以テ、其財源ニ充テルト云フ建前ニナッテ居ル、即チ二十年ニ於テ九億六千三百萬圓ト云フ金デアアルカラ、成程金額ハ大キイ、計畫ハ多種多様ニ互ッテ居ル爲ニ、其當時ノ憲政會ノ諸君ハ有頂天ニナッテ、北海道拓殖計畫ノ檢出方法ナルモノハ極メテ不満足デアアル、歲入ニ大ナル所ノ缺陷ガアル、斯ル不徹底ナル所ノ自給自足主義ナルモノ——御承知ノ通り北海道ハ新開地デアアルカラ、元ヲ入レナイデ仕事ヲシロト言ッテ、出來ルモノデヤナイノデアアルカラシテ、吾々ハ反對ヲ致シタ、即チ殆ドハ畫ニ描イタ牡丹餅同様デアッテ、箸ヲ執ルコトガ出來ナイ、故ニ反對ヲシタニモ拘ラズ、民政黨——其當時ノ憲政會ノ諸君ハ、多數ヲ以テ之ヲ押切ッタルデアアルガ、現在ノ北海道ニ於ケル所ノ狀態、其當時ノ諸君ノ行動ヲ顧ミテ果シテ顏色ガアルカ(拍手)果セル哉、實施一年ナラズシテ、早くモ破綻ヲ生ジテ、歲入ニ大ナル所ノ缺陷ヲ生ジタノデアアル、ソコデ田中内閣ノ當時ニ於キマシテハ、一般會計ヨリ昭和三年度ニ於テ七百六十萬圓、昭和四年度ニ於テ五百十五萬圓支出補充ヲ致シマシテ、豫算ノ成立ヲ見タノデアリマスガ、其後民政黨内閣ガ出現スルヤ、折角確定シタル所ノ豫算金額ノ中カラ百三十五萬圓ヲ削リ取ッテ、更ニ又昭和五年度ニ於キマ

シテ、特別議會ニ於テ、濱口内閣ガ自ラ豫算ヲ編成提案ヲシテ、北海道ニ於ケル所ノ超過收入二千七百三十三萬圓ガ貴衆兩院ヲ通過シタニモ拘ラズ、僅カ三週間經ツカ經ツカザル間ニ、實行豫算トカ何トカ言ッテ、此中カラ百八十八萬圓ト云フモノヲ削減シタ、更ニ又昭和六年度ニ於ケル所ノ豫算ニ對シテ、如何ナル方針ヲ執ッテカト申シマスルコト云フト、道廳長官ガ北海道ノ超過收入二千八百四十七萬圓ト云フ、此金額ノ中カラ四百四十三萬圓ト云フモノヲ削減致シマシタト云フガ如キ、其無責任ナル態度ハ、驚カザルヲ得ナイ次第デアリマス、濱口首相ハ會テ北海道拓殖計畫ノ財源ノ基礎ヲ明カニシテ、而モ豫算ハ神聖ナル議會ヲ通過シタニモ拘ラズ、勝手ニ削減訂正ヲシテ、北海道ニ於テ上ッタル金額ノ中カラ百八十八萬圓ヲ奪取ッテ、サウシテ一般會計ニ之ヲ編入ヲ致シマシテ……

○議長(藤澤幾之輔君) 板谷君、質問ノ趣旨ダケヲ御述べ下サイ
○板谷順助君(續) 承知シマシタ、然ルニ百八十八萬圓ヲ奪取ッテ……
○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○板谷順助君(續) 多數ノ失業者ヲ製造シタト云フコトニ對シマシテハ、第一ニ豫算ノ審議權ヲ無視シタルノミナラズ、苟モ自己ノ言責行動ヲ重ンズル所ノ立憲政治家トシテ、アルマジキ無責任ナル態度ト申シテモ、決シテ私ハ過言デハナイト思フノデアリマス(拍手)果シテ之ニ對シテ政府ハ如何ナル考ヲ持ッテ居ルカ、更ニ濱口内閣ガ非募債主義ヲ標榜シテ居ルニモ拘ラズ、北海道ニ於ケル所ノ民政黨ノ支部ハ如何ナル決議ヲシテ居ルカ(ソナナコトガ關係ガアルカト呼フ者アリ)關係ガアル、拓殖問題ハ金融問題ニ關係ガアルカラ言ッテ居ル、北海道ノ民政黨支部ナルモノハ、現行拓殖計畫ガ歲入超過額ヲ以テ其ノ財源トスルハ既往ノ

實績ニ鑑ミ經濟界ノ狀態ニ照シ事業遂行上遺缺少カラザルヲ認ム仍テ政府當局ハ公債及其ノ他適當ノ方法ニ依リ財源ノ確保ヲ圖リ以テ拓殖計畫ノ遂行上遺憾ナカラシメンコトヲ望ムト云フコトヲ、昨年ノ道會ニ於テモ、或ハ本院ニ對シテモ建議案ヲ出シテ居ルノデアリマス

○議長(藤澤幾之輔君) 板谷君、本問題ト他ノ問題ヲ混同シナイヤウニシテ、成ベク簡單ニ願ヒマス

○板谷順助君(續) 北海道ニ於ケル民政黨ノ諸君ガ、斯ル行動ヲ執ラナケレバナラナイ原因ガ何處ニアルカ、諸君、現在ノ民政黨ノ錯覺的政策ヲ轉換シテ、一般ノ生産業ヲ起シテ、産業ニ對スル所ノ新生面ヲ開クコトガ急務デアアル、更ニ又北海道ノ如キハ、各府縣ノ失業問題ヲ解決スル上ニ於テ、幾多ノ屈強ナル所ノ資源ガアル、或ハ又事業ガアル、デアアルカラ現在ノ困難打開策ノ一環ハ、北海道ノ開發ニ依リテ擔當シ得ルト云フ吾々ノ信念ニ對シテ、北海道ノ民政黨ガ追從シテ來タノデアアル(馬鹿ヲ言ヘ)ト呼フ者アリ、其通りデアアル、諸君、然ルニ北海道ニ於ケル所ノ民政黨ノ緊縮節約ノヤリ方ハ、ドンナ事ヲシテ居ルノデアアルカ……

○議長(藤澤幾之輔君) 板谷君、質問ノ趣旨ヲ御述ベ下サイ

○板谷順助君(續) 事務費或ハ設備費ノミヲ殘シテ置イテ、肝腎ノ事業費ト云フモノヲ削減シテ居ル、コンナ國家ノ上ニ於テ不利益ナル事ガアラウカ、事業ガアルカラ事務費、人件費ノ必要ガアル、然ルニ事業費ノ大部分ヲ削減シテ居テ、人件費ノミヲ殘シテ、而シテ機械器具ハ遊バシテ置キ、更ニ又役人ノ如キハ閑散無聊ニ苦ンデ居ル、斯ル不經濟ナ事ヲシテ居テ、緊縮節約ノ實ガ何處ニアルカ、諸君、少ナクモ北海道ニ於ケル民政黨ノ諸君ガ、現在ノ北海道ノ拓殖計畫ナルモノハ、公債又ハ其他ノ方法ニ依

ラザレバ此遂行ガ出來ナイト云フコトヲ自覺サレタト云フコトニ對シテハ、大ニ敬意ヲ表スルモノデアアルガ、更ニ又吾々ノ主張、即チ吾々ノ軍門ニ降服セラレタト云フコトヲ私ハ欣ブモノデアアル

更ニ又第三ノ問題ト致シマシテ、北海道ノ現在ノ拓殖財源ナルモノハ、極メテ不確實デアアル、根本カラ之ヲ改正シナケレバナラヌト云フコトハ、民政黨モ政友會モ一致シタル所ノ意見デアアル、此見地カラ田中内閣ノ當時ニ於テ、北海道拓殖調查會ナルモノヲ組織シタ、是ハ貴衆兩院ヲ通過シテ居タト云フコトハ、ドウ云フ理由デアアルカ、根本カラ改正スル必要ガナイト云フノデ廢シタノデアアルカ、或ハ又反對黨ガ作リタルデアアルカラ、之ヲ破壞スルト云フ意味ニ於テヤツタノデアアルカ、實ニ言語道斷デアアルト言ハナケレバナラヌノデアアル、更ニ北海道ノ金融問題ニ關聯シテハ、井上大藏大臣ガ預金部ノ金三百五十萬圓ヲ、拓殖銀行ノ手ヲ通ジテ聯合會社ニ貸付スルト云フ美名ノ下ニ、即チ現内閣ノ産業合理化ヲ圖ルト云フ上カラ企テテ漁業聯合會ナルモノガ、全然失敗ニ歸シテ、政府並ニ民政黨ノ宣傳ノ爲ニ、現在北海道ニ於ケル所ノ二十萬ノ漁民ガ其方向ニ迷ヒ、破産倒産者ガ續出シテ、現在休業シナケレバナラヌ運命ニ陥テ居ルモノガ五百萬圓、而シテ之ニ關係シテ居ル所ノ漁業労働者ガ一万五千人以上ニ垂トスルガ如キ、人道上前ハ經濟上、又社會政策上、許スコトノ出來ナイ所ノ重大ナル所ノ問題ガ起リテ居ルノデアアル(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 板谷君、板谷君、只今ハ討論ノ時デアリマセヌ、法案ニ對スル質疑ノ場合デアリマスカラ……

○板谷順助君(續) 大體北海道ニ於ケル漁業ハ、水産物中第一位ヲ占メテ居テ、殆ド年額二千萬圓、生産經濟ノ上ニ於キマシ

テモ重大ナル關係ガアル、更ニ又國家ノ産業ノ上ニ於テモ、重大ナル關係ヲ持ッテ居ルノデアリマス、然ルニ現内閣ガ産業合理化ノ美名ノ下ニ、此漁業ノ合同ヲ企テタノデアッテ、此促進ノ爲ニ民政黨員貴族院議員金子元三郎氏、小池仁郎氏、山本厚三氏ノ諸君ノ如キハ、漁村各方面ヲ行脚シテ、其加入ヲ勸メタ、又一面ニ於テ北海道長官ガ援助スルコト云フヨリハ寧ろ干渉ノ下ニ、水産會員ノ如キ、水産吏員ノ如キ官權ヲ笠ニ著テ、中ニハ殆ド脅喝の加入ヲサセタ其結果、昨年ノ暮ニハ不自然ニモ、龐大ナル二千七百萬圓ノ會社ノ成立ヲ見タノデアアルガ、其後ニ於テ産業資金三百萬圓ヲ拓殖銀行ニ申込シタ、所ガ個人ノ連帶保證ガナケレバイカスト云ッテ撥付ケラレタ、其結果窮餘ノ策ト致シマシテ、本年ノ一月聯合會同組合ナルモノガ組織サレマシタケレドモ……

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○板谷順助君(續) 遂ニ拓殖銀行ガ相手ニシナイ爲ニ、遂ニ是ガ解散シナケレバナラナイト云フ運命ニ立至リタノデアリマス、諸君、此問題ニ對シテ會社ハ即チ龐大ナル二千七百萬圓デアアル、産業資金トシテ拓殖銀行ニ三百萬圓ヲ申込シタケレドモ撥付ケラレタ、是ガ二百萬圓トナリ、百萬圓トナッテ、最後ニ殘ラタ所ノ殘骸、九十二萬圓ニ對シテ六萬圓、六萬圓ヨリ貸スコトガ出來ナイト云フ、斯ウ云フ拓殖銀行カラ侮辱的ノ拒絕ヲ受ケタト云フコトニ付テハ、洵ニ散散デアアルト謂ハナケレバナラナイノデアリマス(拍手) 諸君、世ノ中ニ龍頭蛇尾ト云フコトガアル……

○議長(板谷順助君) 何事カ告ク

○板谷順助君(續) 世ノ中ニ龍頭蛇尾ト云フコトガアル、初ハ龍頭ノ如キ大法螺ヲ吹イタガ、終ヒニハ遂ニ蛇頭ノ尻尾ニモ追付カヌヤウナ、哀レナ討死ヲ遂ゲタノデアアル、現内閣ノ産業合理化ナルモノハ總テ此

類デアアル、是ガ最モ適例デアアルノデアリマス(拍手) 然ルニ現在北海道ノ漁民ガ非常ニ苦ンデ居ル、今日非常ノ窮境ニ陥ッテ居ルニモ拘ラズ、當然責任ヲ負ハナケレバナラヌ立場ニアル所ノ

○議長(板谷順助君) 中止サセロト呼ヒ其他發言スル者多シ

○議長(板谷順助君) 何事カ告ク

○板谷順助君(續) 宣シイ、只今私ハ人名ヲ言ツタノハ取消シマス——所ガ小池仁郎氏ハ出來ルダケ努力ヲサレタ、其誠意ハ認メルガ、遂ニ不成功ニ終リタノハ洵ニ御氣ノ毒ニ堪ヘナイ次第デアアル、併ナガラ其後聞ク所ニ依レバ、此責任ヲ北海道長官ニ轉嫁セントシテ居ル、此全部ノ責任ヲ北海道長官ニ轉嫁セントシテ、而シテ水産課長ナルモノニ辭表ヲ提出サシテ居ル、何タル醜態デアアルカ、何タル醜態デアアルカ……

○議長(板谷順助君) 止メサセロト呼ヒ其他發言スル者多シ

○議長(板谷順助君) 何事カ告ク

○板谷順助君(續) 諸君、現内閣ノ産業合理化ナルモノハ、總テ斯ノ如キ狀態デアアル、現在北海道ニ於テ非常ニ苦ンデ居ル所ノ漁民、是等ニ對シテ關係シタル所ノ民政黨員ハ、津輕海峽ヲ渡ルノ勇氣ガアルカ、恐クハ騙サレタ所ノ漁民ハ席旗ヲ立ッテ諸君ヲ迎ヘルデアアラウ、是ハ拓殖問題ニ付テ重大ナル關係ガアルカラ、政府ノ責任ヲ詰問スルノデアアル(拍手)

○政府委員(小川郷太郎君) 板谷君ニ御答

○政府委員(小川郷太郎君) 板谷君ニ御答

致シマス

第一ノ御質問ハ、北海道拓殖銀行ノ債券ノ發行額ヲ、拂込資本金額ノ十五倍トスル意思ハナイカト云フ御質問デアリマシタ、ソレハ丁度此案ガサウナテ居リマス、即チ北海道拓殖銀行ノ債券ノ發行額ヲ、拂込資本金額ノ十倍デアツタノヲ、十五倍ニ改メルト云フコトニ提案サレテ居リマス

第二ハ、低利資金ヲ北海道ノ方面ニ増加スル意思ナキカト云フ質問デアリマシタ、是ハ一寸現状ヲ申上ゲマス、北海道ノ方面ニ居リマス大蔵省預金部ノ地方資金ハ四千九百六十四万八千四百九圓デアリマシタ、郵便貯金ハ八千五百二十七万二千九百四十六圓デアリマス、全國ニ較ベテ見マスレバ、全國ハ地方資金ガ九億三千九百二十一萬九百七十九圓デ、郵便貯金ハ二十一億六千八百八十二萬四千三百八十八圓デアリマス、即チ北海道ハ全國平均以上ニ地方資金ガ廻リテ居リマス、併シ今後ニ於キマシテモ、出來得ル限り地方資金ヲ、北海道ノ方面ニ廻シタイト考ヘテ居リマス

第三ハ、北海道拓殖銀行ノ貸付最高利率ヲ制限スル意思ハナイカト云フコトデアリマシタ、ソレハ勸業銀行ノ貸付最高利率ヨリハ高イカラシテ、之ヲモト制限シタラドウカト云フ、御意見ヲ交ヘテノ御質問デアリマシタ、北海道拓殖銀行ハ債券ノ利廻カリ見マス、勸業銀行ノ債券ノヤウニ良好デアリマセス、尙ホ次ニハ北海道ノ金利ハ、内地ノ金利ヨリモ高イデアリマス、サウ云フヤウナ事情カラ、北海道拓殖銀行ノ貸付最高利率ガ、勸業銀行貸付最高利率ヨリ高イノハ、是ハ已ムヲ得マセス

第四ハ、色々北海道拓殖政策ニ關聯致シマシテノ御質問デアツタヤウデアリマス、御質問ト言ハシヨリハ、實ハ御意見デアツタと思ヒマス、之ニ付キマシテ私ハ一々御答ヲ申上ゲテ置キマスノハ、北海道拓殖計畫ト

云フモノハ、昭和二年ノ閣議決定ノ通りニ行ハレテ居リマス、而シテ何カ昭和五年ニ於キマシテ、一般會計ニ百八十万程添取テ何トカト云フヤウナ御話ガアリマシタケレドモ、ソレハサウデハアリマセヌ、決算ノ上デ餘リテ來マスレバ、ソレハ北海道拓殖ノ方ニ使フノデアリマス、之ヲ奪取ルト云フヤウナコトハ間違デアリマス

尚ホ實行豫算ノ節約ニ付キマシテ、審議權ヲ無視シタカ何トカ云フヤウナ御言葉ガアリマシタガ、ソレハ御議論デアアル、斷ジテサウデハアリマセヌ、尙ホ其他ノ御意見ハ板谷君ノ御意見デアリマシテ、政府ハ斷ジテサウ考ヘテ居リマセヌ

○議長(藤澤幾之輔君) 鷺野米太郎君

○鷺野米太郎君 抵當證券制度ガ實施セラレニ付キマシテ、日本勸業銀行法、農工銀行法、北海道拓殖銀行法ノ改正法律案ガ、之ニ附帶シテ提出セラレルコトニナリマシタノデ、私ハ主トシテ金融方面ノコトニ付キマシテ、大蔵當局ニ伺ヒタイト存ジマス

抵當證券法ノ制度ガ設定シナケレバナラヌト云フコトハ、長イ間ノ希望デアリマシテ、ソレガ實現ガ出來ルト云フコトハ、洵ニ結構ナコトデアリマス、是ヨリ不動産ノ金融ガ圓滑ニナリ、又不動産ノ流通ト云フモノガ容易クナルト云フコトデ、非常ニ結構ナコトデアリマスケレドモ、之ニ付キマシテ私三四ノ點ニ付テ御同致シタイト存ジマス

第一ノ點ニ付テハ、依リマシタ、此抵當證券制度ガ實施セラレマス、日本銀行特種ノ不動産擔保ニ付テ貸シテ居ル所ノ部分ノ整理ト云フモノガ促進セラレ、ノデアリマスケレドモ、其爲ニ非常ナ弊害ヲ醸スノデハナイカト考ヘルノデアリマス、現在ニ於ケル不動産ノ價格ハ、三四年前乃至五六年前ノ價格ト比ベマス、殆ド半額ニモ達シナイ程、不動産ノ時價ト云フモノハ暴落シテ居ルノデアリマスルガ、特種ノ際ノ不動

產ノ見積價格ト云フモノハ、非常ナ高イモノデアリマスノデ、今ノ時價ト比ベマシタナラバ、大變差異ガアルノデアリマスガ、若シ此制度ヲ適用致シマシテ抵當證券ヲ發行致シマシテ、特種ノ整理ヲスルコトニナリマスルト、非常ナ弊害ガ現ハレテ來ルノデハナイカト考ヘルノデアリマス、就キマシテハ特種ノ擔保ニ供セラレテ居リマスル所ノ、不動産ニ依リ金融セラレタ所ノ、其回收ノ成績ヲ茲ニ明カニシテ戴キタイノデアリマス、又抵當證券制度ハ信用ノ膨脹ニナリマス、非常ナ結構ナコトデアリマスルケレドモ、之ヲ惡用スル時ニハ非常ナ弊害ヲ生ジテ、第二ノ臺灣銀行事件ノヤウナモノヲ惹起サレナイト云フ保證モ出來ナイノデアリマス、所ガ今ヤ財界ノ整理時期デアリマス、成ベク固ク整理ヲシテ、財界ノ基礎ヲ培養シナケレバナラヌ時デアリマスルガ、此抵當證券制度ノ實施ニ依リマシテ信用ノ膨脹ヲ圖リ、之ヲ惡用シマスルト、景氣ノ煽揚ニナリ「インフレーション」ヲ起シテ、政府ノ政策トスル低物價政策デアルトカ、或ハ財界ノ整理デアルトカ云フコト、逆行スル結果ニナリハシナイカト考ヘルノデアリマスガ、之ニ付テ政府ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、就キマシテハ最後ニ問題デアリマス、又日本勸業銀行其他ノ銀行ノ改正法律ノ實施ノ問題デアルノデアリマスルガ、政府ハ必ズ此抵當證券制度ノ施行期日ヲ非常ニ早く、恐クハ六年ノ四月一日以後、直チニ實施セラレラウト考ヘルノデアリマスガ、左様ニ實施ノ時期ヲ非常ニ早メルト云フコトハ、此制度ヲ逆用致シマシテ、現在ノ日本銀行ニ特種ノ擔保トナシテ居ル所ノ不動産デアルトカ、或ハ地方ノ銀行ニ擔保トナシテ居テ、回收ノ困難ニナシテ居ル所ノ不動産ノ整理ニハ都合ガ好イノデアリマスケレドモ、本當ニ此抵當證券制

度ノ恩惠利益ヲ受ケヨウトスル新タナ人々ニ於テハ、實際ノ利用ガ私ハ十分ニ出來ナイノデアリカト考ヘルノデアリマスカラ、何時之ヲ行フカ、其施行ノ時期ニ付テ御答ヲ願ヒタイノデアリマス

ソレカラ最後ニ、政府ニ於キマシテハ、金融制度ノ全體ニ付テ改善ヲシヨウトシテ、色々調査研究ヲ遂ゲラレテ、當ニ成案ガアル等デアルノデアリマスガ、是ヨリ更ニ最モ大事ナ、最モ金融制度ノ中心ニナル中央銀行制度、即チ日銀ノ制度ノ改善ニ付テノ案件ヲ、果シテ本議會ニ提出スルノ意思ガアルカドウカ、此點ヲ御答辯願ヒタイノデアリマス

ソレカラ是ハ多少問題トハ離レテ居ルノデアリマスケレドモ、今問題ニナツテ居ル所ノ、田舎ノ小銀行ハ、昭和七年ニ於テ資本金ヲ百萬圓以上ニシナケレバ、銀行ヲ存続スルコトガ出様ナイ關係ニナツテ居テ、ソレ等ノ銀行ノ關係者ハ大分恐慌ヲ來シテ居ルノデアリマス、政府ニモソレモ「意見ヲ開陳シテ居ルヤウデアリマスガ、政府ハ不景氣ナル此時代ニ鑑ミ、又ハ財界ノ現狀ニ鑑ミテ、アノ銀行法ノ規定ニ修正ヲ加ヘルトカ、或ハ來年カラ施行シナケレバナラヌ其制限規定ヲ、緩和スルノ御意思ガアルカドウカト云フコトモ承リタイノデアリマス、是ダケ政府ニ御同ヲ致スコトガ出來ルナラバ、甚ダ仕合ト存ジマス

○政府委員(小川郷太郎君) 鷺野君ノ御質問ニ簡單ニ御答ヲ致シマス、日銀特種ノ回收ノ狀況ニ付テ御質問ガアリマシタガ、是ハ各銀行ニ關係ガアリマスカラ、此處ニ申上ゲ兼ネマス、併シ尙ホ回收ノ最後ノ期間ハ長イモノデアリマスカラ、サウ今日ノ經濟界ノ狀況カラ、急ガナケレバナラヌト云フヤウナコトモアリマセヌ、心配スルコトハナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ

第二ニ、茲ニ提案シテ居リマス所ノ法律

ハ、何時カラ施行スルカト云フコトデアリマシタガ、今ノ所七月位カラ施行スル積リデ居リマス、四月以前ニ施行スルト云フヤウナ考ハ毛頭アリマセヌ、ソレカラ

第三ニ、日銀條例改正ノ意思ハナイカト云フコトデアリマスガ、是ハ豫算委員會デ大藏大臣モ既ニ答ヘテ居リマス通りニ、今ノ所サウ云フ考ハ持テ居リマセヌ

第四ニハ、無資格銀行ノ年限延長ノ意思ナキヤト云フ御質問デアリマシタガ、是モ今ノ所考ヘテ居リマセヌ、來年度末ト云フ御話デアリマシタガ、是ハ七年度ノ末マデデアリマスカラ、今考ヘテ居リマセヌト申上ガテモ差支ナイノデアリマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハ結局致シマシタ、日程第十、右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十 右各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 各案ヲ一括シテ議長指名十八名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

第十一 貯蓄銀行法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——小川政務次官

第十一 蓄貯銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

貯蓄銀行法中改正法律案

貯蓄銀行法中左ノ通改正ス

第五條ニ左ノ二號ヲ加フ

六 國債、地方債又ハ特別ノ法令ニ依リ設立シタル法人ノ債券ノ割賦販賣

七 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ノ募集又ハ其ノ元利金支拂ノ取扱

第九條中「第五號」ノ下ニ「第六號」ヲ加ヘ

「前項」ヲ「第一項」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

貯蓄銀行ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ大藏省預金部ヘノ預ケ金ヲ以テ前項ノ供託ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者、第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者及第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ハ其ノ預金、給付金及有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券並ニ供託ニ代ヘタル大藏省預金部ヘノ預ケ金ニ付他ノ債權者ニ先チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ規定ニ依リ優先辨濟ヲ受クル範圍ハ預金額、給付金額又ハ給付ヲ受クヘキ有價證券ノ時價ヲ限度トス但シ給付金又ハ有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權ニシテ給付金又ハ有價證券ノ給付時期到來セサルモノニ付テハ既ニ拂込ミタル金額ヲ限度トス

第十一條第一項中第六號以下ヲ左ノ如ク改ム

六 第五條第六號ノ規定ニ依ル有價證券ノ給付ヲ受クヘキ債權者ニ對シ既ニ拂込ミタル賦拂金ヲ限度トスルヲ付

七 道府縣市町村ニ對スル一年內ノ貸付

八 割賦償還ノ方法ニ依ル二年內ノ貸付

九 銀行若ハ大藏省預金部ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金

十 主務大臣ノ定ムル所ニ依リ信託會社ヘ爲ス金錢又ハ有價證券ノ信託

十一 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

第十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム

第十一條第一項第三號又ハ第七號ノ規定ニ依リ貸付金ノ總額ハ各拂込資本金及準備金ノ總額ヲ、第十一條第一項第八號ノ規定ニ依ル貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

同條ニ左ノ一項ヲ加フ

第十一條第一項第八號ノ規定ニ依ル貸付金ハ一人ニ付千圓以下トシ且確實ナル二人以上ノ保證アルコトヲ要ス

第十四條中「第五號」ノ下ニ「第六號」ヲ加ヘ「第九號第二項」ヲ「第九號第三項」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

前二項ノ規定ハ一信託會社ニ對スル信託財產及其ノ信託會社ノ引受ケタル手形ノ買入高ノ總額ニ付之ヲ準用ス

第十五條第一項中「第五號」ノ下ニ「第六號」ヲ加フ

第十七條 有價證券割賦販賣法ハ第一條及第八條乃至第十一條ノ規定ニ依リ貯蓄銀行ニシテ第五條第六號ノ業務ヲ營ム者ニ付之ヲ適用ス

第十九條ニ左ノ一號ヲ加フ

三 有價證券割賦販賣法第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第二十一條第二項中「給付金」ノ下ニ「及第五條第六號ノ規定ニ依リ給付ヲ爲スヘキ有價證券」ヲ加フ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔政府委員小川郷太郎君登壇〕

○政府委員(小川郷太郎君) 貯蓄銀行法中改正法律案ノ提案ノ趣旨ヲ説明致シマス、現行貯蓄銀行法ハ大正十年制定セラレ、同十一年ヨリ實施ヲ見タモノデアリマシテ、其制度ハ略、整備シテ居リマスガ、更ニ實施後ノ實情ニ鑑ミマシテ、貯蓄銀行ノ業務トシテ營業シタルモ差支ナシト認メル種目ヲ追加シ、又資本運用ノ範圍ヲ擴張シ、就中貯蓄銀行ガ庶民階級ニ對シ、對人信用ニ依リ或ル程度ノ資金供給ヲ爲シ得ル途ヲ開キ、以テ刻下ノ問題タル庶民金融緩和ノ

一助ヲラシムル等、適當ノ改正ヲ加ヘントスルモノデアリマス、慎重審議ノ上御協賛アラシコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 日程第十二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ政府提出抵當證券法案外八件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

第十三、取引所稅法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——小川政務次官

第十三 取引所稅法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

取引所稅法中改正法律案

取引所稅法中左ノ通改正ス

第五條第一項中「第三種 商品ノ賣買取引」

「第三種 商品ノ賣買取引」

甲 銘柄又ハ等級別ニ相對賣買ノ方法ニ依リテ行ヒ履行期ニ於テノミ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ル取引ニ屬スルモノ 萬分ノ一・二五

乙 其ノ他ノモノ 萬分ノ二・五

ニ改ム

第二十二條中「北海道府縣、市町村及北海道沖繩縣ノ區」ヲ「北海道府縣及市町村ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員小川郷太郎君登壇〕

○政府委員(小川郷太郎君) 茲ニ議題トナリマシタ取引所稅法中改正法律案ニ付テ、

取引所稅法中改正法律案

取引所稅法中左ノ通改正ス

第五條第一項中「第三種 商品ノ賣買取引」

「第三種 商品ノ賣買取引」

甲 銘柄又ハ等級別ニ相對賣買ノ方法ニ依リテ行ヒ履行期ニ於テノミ差金ノ授受ニ依リテ決済ヲ爲シ得ル取引ニ屬スルモノ 萬分ノ一・二五

乙 其ノ他ノモノ 萬分ノ二・五

ニ改ム

第二十二條中「北海道府縣、市町村及北海道沖繩縣ノ區」ヲ「北海道府縣及市町村ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員小川郷太郎君登壇〕

○政府委員(小川郷太郎君) 茲ニ議題トナリマシタ取引所稅法中改正法律案ニ付テ、

大體ノ説明ヲ致シマス

今回取引所ニ於ケル商品ノ現物取引ヲ圓滑ニシ、現物取引業者ノ取引ヲ便宜ナラシムル爲メ、其商品取引中ニ新タニ銘柄又ハ等級別ニ相對賣買ノ方法ニ依テ行ヒ、履行期ニ於テノミ差金ノ授受ニ依テ決済ヲ爲シ得ル取引ガ加ヘラレコトニナルノデアリマスガ、此取引ハ普通ノ清算取引ト異リマシテ、賣買及其決済上種々ノ制限ヲ附セラレ、比較的投機性ニ乏シイモノデアリマスカラ、現行ノ商品取引ノ税率ヨリ低イ所ノ新税率ヲ設クル必要ヲ認メマシタノデ、本案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛ヲ與ヘラレコトヲ希望致シマス

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハアリマセヌ—日程第十四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○作田高太郎君 本案ハ議長指名九名ノ委員ニ付託セラレコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通りニ決シマシタ—日程第十五及第十六ハ、同一委員ニ付託シタル議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス—日程第十五、郵便法中改正法律案、竝第十六、鐵道船舶郵便法中改正法律案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス—委員長井上剛一君

第十五 郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和六年二月十六日

委員長 井上 剛一

衆議院議長藤澤幾之輔殿

第十六 鐵道船舶郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一鐵道船舶郵便法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和六年二月十六日

委員長 井上 剛一

衆議院議長藤澤幾之輔殿

〔井上剛一君登壇〕

○井上剛一君 只今議題ニ供セラレマシタ郵便法中改正法律案竝ニ鐵道船舶郵便法中改正法律案ハ、極メテ簡單ナモノデアリマシテ、此二案トモ貴族院ヨリ回付セラレマシタ政府提出法律案デアリマス、諸君ノ御委託ニ依リマシテ、吾々委員ガ其審査致シマシタ經過竝ニ結果ヲ簡單ニ御報告申上ゲタイト存ジマス、此兩案ヲ提出サレマシタ要點ハ、從來、尺貫法ニ依テ居リマシタモノヲ、「メートル」法度量衡ニ依ルコトニ相成リマシタ結果トシテ、是非是ガ改正ヲ要スルトノ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス、尤モ此實施期ハ、今日ハ尙ホ猶豫期間中ニ屬シテ居リマスガ、諸般ノ準備ハ既ニ整ヒ、毫モ支障之ナキヲ認ムルト同時ニ、此「メートル」法ヲシテ國民ニ周知セシムル上ニ於テモ、利益ガ大ナルモノデアルト云フコトニ依テ提出セラレタコトガ要點デアリマス、ソコデ簡單ニ其内容ヲ申上ゲマスト云フト、郵便法中改正法律案ノ第十八條ノ各

種郵便物ノ、從來ハ幾久トアリマシタノヲ、幾「グラム」ト改正スルニ過ギヌノデアリマス、鐵道船舶郵便法中改正法律案ノ内容ノ一端ヲ申上ゲレバ、第十條第一項、從來郵便車ノ使用料金ヲ定ムルニ於キマシテ、其容積ガ八立方呎マデ一哩ニ付キ十割以內トアリマシタノヲ、八立方「メートル」ニキ「メートル」毎ニト云フヤウニ、要スルニ哩ヲ「キロメートル」ニ、立方呎ヲ「メートル」ト改正致シタダゲノコトデアリマシテ、以下之ニ準ジマスカラ、之ヲ省略致シマス詳細ニ付キマシテハ、本會ニ於ケル小泉通信大臣ノ趣旨聲明、及ビ委員會ニ於ケル速記録等ニ依テ御參照ヲ乞ヒマス、ソコデ委員會ニ於キマシテハ、政友會所屬ノ大石倫治君ト政府委員トノ間ニ於キマシテ、質問應答ヲ交換セラレマシタ結果、慎重審議ヲ經マシテ、兩案トモ滿場一致ニ依リマシテ原案ヲ認メルコトニ致シマシテ、可決サレマシタ、就キマシテハ本議場ニ於キマシテモ、何卒滿場一致可決セラレコトヲ望ミマス、茲ニ此段御報告申上ゲマス(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 質疑ハアリマセヌ—兩案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作田高太郎君 直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレコトヲ望ミマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、直チニ兩案ノ第二讀會ヲ開キマス

郵便法中改正法律案 第二讀會(確定議) 鐵道船舶郵便法中改正法律案 第二讀會(確定議)

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御發議ガアリマセヌカラ、兩案トモ委員長報告通り可決確定

致シマシタ(拍手)

○作田高太郎君 議事日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、即チ此際特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案、特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルコトニ關スル法律案、賠償金特別會計法廢止法律案、昭和四年法律第二十六號中改正法律案、京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案、製鐵所特別會計法中改正法律案、簡易生命保險特別會計法中改正法律案ノ七案ヲ一括シテ議題トナシ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ、日程ハ變更セラレマシタ—特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案、特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルコトニ關スル法律案、賠償金特別會計法廢止法律案、昭和四年法律第二十六號中改正法律案、京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案、製鐵所特別會計法中改正法律案、簡易生命保險特別會計法中改正法律案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス—委員長鈴木寅彦君

特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルルコトニ關スル法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

賠償金特別會計法廢止法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一賠償金特別會計法廢止法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

昭和四年法律第二十六號中改正法律案(神戶商業大學移轉改築費ニ關スル件)
(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一昭和四年法律第二十六號中改正法律案(神戶商業大學移轉改築費ニ關スル件)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

製鐵所特別會計法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一製鐵所特別會計法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

簡易生命保險特別會計法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一簡易生命保險特別會計法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和六年二月十九日

委員長 鈴木 寅彦

衆議院議長藤澤幾之輔殿

○鈴木寅彦君(只今議題ニ供セラレテ居リマス、特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案外六件ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス、會議ヲ開クコト六回ニ及ビマシタガ、其實應答ハ速記録ニ依テ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、討議ニ入リマシテ、特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案ニ關シマシテ、反對ヲ唱ヘラレマシタル論旨ハ、營繕ノ統一ハ賛成デアアルガ、營繕統一ヲスルヨリモ先ニ、用度品統一ノ如キコトヲ先行スベキデアラウト思フ、ノミナラス特別會計ヨリ一般會計ニ此費目ヲ移ス所以ノモノハ、一般會計ニ於ケル歳入ノ不足ヲ填補

セントスルモノデアアルカノ如キ疑ヲ懷クノデアアル、斯様ナ意見デアリマシタ
第二ニ特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ル、コトニ關スル法律案、是ハ第一ト同様ナル意味ニ於テ反對デアルト云フコトデアリマス
第三ハ賠償金特別會計法廢止法律案、之ヲ一般會計ニ移スコトニ反對ナル理由ハ、先ト同一デアアルガ、更ニ之ニ加フルニ、現内閣ガ唱道シテ居ル所ノ公債政策破壞ト認ムル點モアルカラ、是ニモ反對デアルト云フコトデアリマス
第四ノ昭和四年法律第二十六號中改正法律案、第五ノ京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案、此二案トモ第一ト同一ノ理由ニ依ッテ反對サレタノデアリマス

製鐵所特別會計法中改正法律案ハ、運轉資金六千万圓ヲ一千万圓増シテ、七千万圓ニシタイト云フ法律案デアリマス、此事ノ起リシコトハ、現内閣ノ爲サレタ所ガ惡イ結果デアアル、デアアルカラ之ニ同意ヲ表スルコトガ出來ナイト云フ論旨デアリマス
最後ノ簡易生命保險特別會計法中改正法律案ハ、新ニ營繕費ヲ設ケルト云フコトデアリマス、先ノ法律案ト矛盾スル嫌ガアルガ故ニ、賛成スルコトガ出來ナイト云フ御意見デアリマシタ

原案ニ賛成ノ議論ハ、今ヤ我國ノ經濟建直シノ道程ニ於テ、此法律案各案トモ適當デアアルカラ、之ニ賛成ヲスルト云フ御意見デアッタノデアリマス、採決ノ結果ハ、只今申上ゲマシタ七法律案ヲ一括シマシテ、多數ヲ以テ原案賛成ニ決定ヲ致シタ譯デアリマス、此段御報告ヲ致シマス(拍手)
○議長(藤澤幾之輔殿) 是ヨリ討論ニ入リマス(宮澤裕君登壇)

○宮澤裕君 本案ガ先月二十九日ニ上程サレテ、主管大臣ノ提案ノ趣旨辯明ヲ承クノデアリマス、此七案共一見單純ナル法律ノ改正案デアアルガ如ク見エルトデアリマスルガ、之ヲ能ク檢討致シマスル時ニ、是ハ悉ク財政法規デアアルノデアリマス、而シテ提案ノ説明ニ依リマスト、其趣旨ハ極メテ立派デアリマスルガ、一見誰シモ其裏面ニ思フ及ボス時ニ、是ハ容易ナラザル法律ノ改正案デアルト云フコトガ看取出來ルノデアリマス、數回ノ質疑應答ニ依リマシテ、委員會ハ今日ノ午後二時ニ終了致シマシタ、而モ一二時間ノ間隔ヲ置イテ、倉皇トシテ本案ガ本會議ニ緊急上程ヲ見タト云フ事實ヲ以テシテモ、此案ガ如何ニ一般豫算ト深キ關係ガアルカト云フコトハ、想像ガ出來ルデアラウト思フノデアリマス(拍手)
特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案外六件ノ中ノ、特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ル、コトニ關スル法律案中ノ、各特別會計ニ於テ負擔致シマスル負擔金ヲ、手續上一般會計ニ繰入シテ、一般會計カラ支拂フト云フコトハ、財政ノ原則及ビ經理ノ建前カラ申シマシテ、其會計自體ニ於テソレノ分擔致シマスト云フコトハ、當然ノコトデゴザイマス、即チ之ニ伴フ法案ノ改正デゴザイマスルガ故ニ、是ハ大體ニ於テ趣旨ニ於テハ反對ハナイノデゴザイマスソレカラ其次ニ神戶ノ商業大學ノ移轉改築ニ關スル法律案モ、大體ニ於テ異議ハナイガ、強テ私等ガ想像致シマスル時ニ、用地ノ賣却ニ依テ移轉改築ヲヤラウト云フノガ、民政黨即チ現内閣ノ失政ノ爲ニ經濟界ノ不況ニ遭遇シ、土地ガ賣却シ得ズシテ、今日マデ遷延シテ居ルト云フ事實デアアル、故ニ之ニ對シテモ、サシテ反對スベキ多クノ理由ハナイト言フテ宜イ、尙ホ京都ノ高等工藝學校移轉改築ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案モ、多少ノ異議ハアリマスケレドモ、大體ニ於テ問題ノナイ問題デアアル
最後ニ簡易生命保險特別會計法中改正法

幾ラ之ヲ増資致シマシテモ、結局是ハ在庫品タラザルヲ得ナイ、在庫ノ山ヲナスニ過ギナイト云フ結果ニ陥ルノデアリマス、斯ノ如キモノニ幾ラ資本ヲ注込シテ所デ此事業ガ保護出來ルカ、御案内ノ通り製鐵業ハ、我國ノ國策上重大ナルモノデアルガ故ニ、所謂銑鐵カラ鋼材ニ行キマスル一貫作業ニ對シテハ、或物ニハ一噸ニ付六圓、或物ニハ五圓、三圓ト云フ重大ナル補助ヲ與ヘテ、而シテ八幡製鐵所ノ如キハ所謂會計法ノ一條ニ、毎年六千万圓ノ運轉資金ヲ得ルガ爲ニ、所謂公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトガ出來ルト云フコトヲ許サレテ居ル、非常ニ特權ヲ與ヘラレテ居ル、ノミナラズ更ニ其十三條ヲ見マスルト云フト、年度内ニ於テ現金ノ支拂ガ必要ガアル場合ハ、一千万圓借入ヲ認ムルト云フ規則サヘ許サレテ居ル「本會計ニ於テ支拂上現金ニ不足アルトキハ本會計ノ負擔ニ於テ最高千万圓ヲ限度トシ一時借入ヲ爲シ又ハ融通證券ヲ發行スルコトヲ得」勿論是ハ年度内ニ償還スルノ義務ハアリマスケレドモ、斯ノ如ク有エルト特典ヲ與ヘテ此事業ヲ助長獎勵致シテ居ルノデゴザイマスルガ、資金難ヲ來シ、所謂製品ノ山ヲナスト云フノハ、正ニ民政黨内閣失政ノ現レデアルノデアリマス（拍手）斯ウ云フモノニ幾ラ資金ヲ供給致シマシテモ、遂ニ之ハ在庫品ヲ蓄積セシムルニ止マルト云フ意味ヲ以テ反對致シタノデアリマス、況ヤ殊ニ目下製鐵合同ノ問題ガゴザイマス、委員會ニ於キマシテ、先程我黨ノ委員ヨリ之ヲ當局者ニ質問致シマシタ時ニ、何時是ハ實現ナサルノデアルカ、果シテ決行ナサル御意思アリヤ否ヤ御答辯ヲ願ヒタリト言フタノデアリマスルガ、之ニ對シテ、目下審議中デアル、審議會ニ於テ審議中デアールカ今答辯ノ限りデナイ、答辯ハ致シ兼ねルト云フノデアリマスルガ、或ハ風聞ニ依リマスルト、此合同案ハ、本議會中ニ成立シテ、或ハ法律案ノ御提出ガアルカトモ

思ハル、ノデアリマスルカラ、彼此レ思ヒ
較ベマシテ、此際一千万圓ノ運轉資金ヲ増
額致シマスルコトハ、斷ジテ反對致シマス
ル者デアリマス

最後ニ此獨逸ノ賠償金特別會計法ヲ廢止
ノ法律案デアリマス、是ハ私其當時ニ於テ
質シマシタ通りニ、全ク民政黨諸公ガ多年
唱ヘテ居ラレマシタル國債ノ整理償還、是
ハ民政黨十大政策ノ中デ最モ光彩ヲ放チ、
國民ノ共鳴ヲ得タル、最モ重要ナル政策デ
ゴザイマス、此政策ニ基イテ、昨年ノ五月
井上大藏大臣ガ此獨逸ノ賠償金ヲ國債整理
基金ノ中ニ繰入レマスルコトハ、極メテ妥
當ト信ズル、又當然ノ措置デアル、況ヤ其
金額ノ性質ハ賠償金デアリマスルガ故ニ、
斯ノ如キ金ハ所謂國債ノ償還ニ之ヲ充當致
シマスルコトハ當然デゴザイマスルト云
フコトヲ以テ、一貫シタ政策ヲ實現スルモ
ノナリト述ベテ、此議場ニ於テ多數ノ贊成
ヲ求メタノデアリマス、私共ハ民政黨ガ此
政策ニ依ッテ之ヲ實現スルモノト期待シ、
國民ノ期待モ亦恐ラク茲ニアッタノデアラ
ウト云フコトヲ固ク信ジテ居タノデアアリ
マスルガ、漸ク一年、此賠償金ヲ所謂減債
基金ニ繰入レマスルヤ否ヤ、忽チ其翌年ノ
六年度ニ於テハ、此繰入ヲ廢シテ、一般會
計ニ引戻シテ、一般會計ノ收入ニ之ヲ充當
シ、歲入缺陷ノ補填ニ之ヲ充當シヨウト致
シテ居ルノデアリマス、單ニ金額カラ申シ
マスレバ、獨逸ノ賠償金一箇年六百三十
萬圓デアルカ如キ、所謂假面ヲ冠ッテ居リ
マスルガ、此賠償金特別會計法ニハ、現在
留保シタルテ居リマスル資金ガ二千万圓
餘アルノデアリマス、而シテ其二千万圓
餘ノ金ハ此特別會計ヲ廢止スルト同時ニ
、是ガ一般會計ニ全部繰入レラレテ、是
ガ一般會計ノ費用ニ充當サレテ、所謂財政
ノ缺陷ヲ補填スルト云フコトニナルノ
デアアル(拍手)單ニ六百三十萬圓デハ
ゴザイマセヌ、六百三十萬圓ノ數倍ノ金
ガ、此特別會計法ヲ廢スルコトニ

依ツテ一般會計ニ繰入レラレテ、是ガ一般會計ノ費用ニ充當シヨウトスルコトニナツテ居ル、尤モ此中ニ於テ、從來ノ法律計畫ニ屬シマスル經費デアリマスル、所謂國際聯盟ノ費用デアルトカ、或ハ移植民ノ補助費デアリマスルトカ、或ハ航空施設ノ補助費デアリマスルトカ、或ハ航空ニ伴フ色々ナ氣象ニ關スル設備ノ補助費デアリマスルトカ、或ハ南米航路ノ補助デアルトカ云フモノニ、相當多額ノ金ヲ使フノデアル、是ハ豫算ノ定ムル所ニ依ツテ、相當ノ金ガ要ルノデアルカラ、此二千万圓ノ大部分ハ、其方ニ充當サレノデアルカラ、一般會計ノ財源ニハ之ヲ用ヒルコトハ出來ヌト云フコトデアル、然ラバ是等ノ費用ハ全部幾幾デアルカト詳細ナル説明ヲ求メマシタガ、遂ニ是ガヨウヤツト八百万圓、八百餘萬圓デアリマスカ、是ガ此方面ニ向ケラレル費用デアルト云フコトニナルノデアリマスカラ、二千万圓ノ中カラ八百万圓引キマスト一千二百万圓、是ガ即チ一般會計ノ財源ニ充當サレテ、歳入缺陷ヲ補填スル働ヲ爲シテ居ルノデアル(拍手)私ハ是ニ於テ質問致シタ、民政黨ハ前ニ申シタ通り多年國債整理ヲヤツテ、國民ノ負擔ヲ輕減スル、是ガ負擔ヲ加ヘテ居ル、是デハ國民ハ疲弊シ、國家ノ滅亡ハ近キニ在ル、銳意努力シテ此公債ヲ償還スル、公債ヲ増加セザルノミナラズ、非増加主義ニ依リ之ヲ支拂フコトニ依ツテ還減スルト云フコトガ、民政黨ノ政策デアルト云フコトヲ言フノデアル、然ラバ昭和六年度ニ於テ、果シテ公債ハ幾ラ償還スルノデアルカ、其數字ヲ承リタイト質問致シタ、之ニ依ツテ其數字ガ明カニナツタノデアリマスガ、即チ總額ノ万分ノ百十六、六千九百十二萬九千圓、是ハ勿論前カラノ法規デアリマスガ故ニ、是ハ重大ナル拘束ガアルカラ、流石ニ之ヲ改正スルコトニ依ツ

テ此金ヲ減額スル譯ニハ參ラナイ、是ハ無
論繰入レル、其次ニハ震災手形ノ善後處理
ニ依ル六百三十万九千圓ヲ繰入レル、其他
ニ於テハ唯國民ノ報國心ヲ刺戟スルコトニ
依ッテ、昭和六年モ一萬何千圓カノ償還獻
納金、此三ツヲ漸ク加ヘテ、之方所謂減債
基金ニ充當スル額デアル、而シテ其總額ハ
幾ラデアルカト云フト、七萬二千九百四十
八圓位デアル、斯ウ云フ御答辯デアル、然
ラバ恐ラク私ノ信ズル所ニ依ルト、本年ニ
於テ——六年度ニ於テ公債ヲ募集スベキ額
ハ寡聞ニシテ——私ガ知り得テ居ル所デ
モ、各特別會計ニ於ケル既定ノ公債額ガ五
千六百六十萬圓ハアリマス、更ニ最近失業
救済ノ意味ニ於テ内務省カラ二千二百萬圓
ノ公債ノ募集ノ御計畫ガ示サレ、鐵道特別
會計ニ於テ一千二百萬圓ノ募債ガ計畫サ
レ、樺太廳ニ於テ百五十萬圓ノ募債ガ計畫
サレ、更ニ逓信省ノ所管ニ於テ最近百五十
萬圓、海員救済ノ爲ニ公債ヲ募集サレルコ
トニナッテ居ル、之ニ付テモ三千六百五十萬
圓、前ノ各特別會計ノ公債額ヲ之ニ加算致
シマス、裕ニ九千二百十萬圓以上ノ金額
ニ相當スル、又六年度ニ於テ募債致シマス
ル、此私ガ知り得タル額ノミヲ償還額ト比較
致シマシテ千六百十五萬二千圓カラノ公
債増加ノ數字ヲ示スコトニナルデハアリマ
セヌカ(拍手)是デモ民政黨ノ公債不増加主
義、公債遞減主義ニ反スルコトハナイト云
フノカ(拍手)況ヤ更ニ所謂生絲ノ絲價補償
法ニ依ル交付公債、是ガ少ク見積ルモ二千
四百六七十萬圓ノ金額ニナル、マダ或ハソ
レ以上ナルデアラウト信ジテ居ル、朝鮮鐵
道ノ買収ニ伴フ交付公債ノ金額ガ八百六十
萬圓位キット要ルノデアリマス、更ニ海軍工
廠ノ従業員ヲ整理致シマシテ、之ニ交付シ
マスル公債ガ六百五十萬圓、或ハ七百萬圓
モ要ルノデゴザイマセウ、之ヲ内輪ニ見マ
シテモ、此三ツヲ總計致シマシテ三千九百
七十二萬圓ハ此三千九百七十二萬圓ト、更

ニ此一般公債額ノ七千五百九十四萬八千圓ヲ合計致シマスルト云フト、諸君、一億三千百八十三萬圓以上ニナルノデアリマス（拍手）私ハ今年度即チ昭和五年度ト、六年度ノ一般公債額ヲ比較致シマシテモ、確カ五年度ノ償還額ハ九千數百萬圓ニナツテ居ルト信ズル、六年度ハソレガ僅ニ七千二百萬圓、此兩年度ヲ比較致シマシテモ二千萬圓以上ノ差額ガソコニアル、是デ果シテ公債償還ト云フ民政黨ノ政策ノ公約ヲ裏切ル、所謂政策ノ破綻ニアラズト言フコトガ出來ルカ（拍手）況ヤ交付公債ハ別ダト云フ御話デアルカラ、之ヲ敢テ追窮セヌニ致シマシテモ、交付公債額、之ヲ加算致シマスル時ニ、一億三千幾百萬圓ト云フ多額ノ公債募集ヲスルコトニ依ツテ、公債ハ加速度ヲ以テ激増シテ居ル今日ニ於テ、民政黨ハ何ノ顔色ヲ以テ國民ノ公約ニ違ハヌト言フノデアルカ（拍手）私ハ斯ウ云フ質問ヲ致シタノデアリマス、更ニ是ハ中央ニ於ケル一般會計、特別會計ニ於テノミナラズ、地方ノ公債ニ於テドウデアルカ、府縣ニ於テ、市町村ニ於テ——是ハ去ル一十七日デアリマスルカニ、我黨ノ井上孝哉氏ト大藏大臣ノ質問應答ニ依ツテ明瞭ニナツテ居ル、昭和元年ニ於テハ地方ノ、府縣市町村ノ公債總額ハ十五億臺デアッタ、ソレガ二年度ニハ十八億臺ナリ、三年度ニハ二十億臺ニナリ、四年度ニハ二十二億臺ニ激増致シテ居ル、而シテ五年度ニハ幾ラデアルカト申シマスルト云フト、是ハ會計ノ半途ニアルカラ、マダ算定ハ付カヌノデゴザイマスルガ、四年ノ四月カラ十二月ニ至ルモノト、五年ノ四月カラ十二月ニ至リマスル公債ノ總額ヲ比較致シマスルト云フト、裕ニ一千七百幾十萬圓ノ増額ヲ示シテ居ル、此中カラ所謂震災復興公債ヲ兩方カラ引キマスルト云フト、二千二百幾十萬圓ト云フモノガ、五年度ノ四月カラ十二月マデノ方ガ、四年度ノ同期間ニ比シテ増大致シテ居ルト云フコトニナツ

テ居ルノデアリマス、然リト致シマスル時
ニ、中央地方共ニ公債ガ斯ノ如キ加速度ヲ
以テ増加サレテ居ル(拍手)是デ公債ノ整理
償還、財政ノ整理緊縮ノ面目何處ニゴザ
イマスルカ、明確ナル御答辯ヲ願ヒタイ
ト云フコトヲ以テ、小川政府委員ニ私ハ質
シタノデゴザイマスルガ、小川政府委員ハ
何ト答ヘラレタカ、折角ノ御問デアリマス
ルガ、民政黨ノ公債ノ整理償還ト云フ主義
主張ニ於テハ、毫モ變テ居ラヌ、其精神ヲ
酌シデ呉レ、多少ノ數字ハドウナッテ居
モ、其精神ヲ諒トセヨト云フコトデゴザイ
マスルガ、諸君、一國ノ政治ヲ論ジ、立憲
政治ヲ論ズルニ、數字ヲ措イテ議論ノ餘地
ガ何處ニアリカ(ヒヤ、ヒヤ、拍手)況ヤ財政
學者ヲ以テ任ジ、天下ノ青年子弟ノ教育ノ
任ニ當テ居ラレタ小川政府委員ガ、今日政
府、大藏省ノ當路者トシテ此議會ニ臨ン
デ、數字ヲ無視シテ精神ヲ酌シデ之ヲ論ズ
ルトハ何タル言ヒ分デアルカ、私ハ之ヲ了
解スルニ苦シム(拍手)政治ト云フモノハ實
際デゴザイマス、實際ヲ論ズルニハ數字ヲ
措イテ外ニナイ、私ハ其數字ニ立脚シ、其
數字ニ依テ實質ヲ問致シテ居リマス、此財政
ノ破綻、政策ノ破綻、之ヲシモ政策ノ破綻
デナイト言フナラバ、何ガ政策ノ破綻デア
ルカト云フコトヲ申シテ居ル、斯ウ云フコ
トヲ以テ質問ヲ致シマシタガ、之ニ對シテ
ハ何等答辯スルコトガ出来ナカッタノデゴ
ザイマス(拍手)

政府案全部ヲ御返上致シ、此撤回ヲ要求致
シマスモノデゴザイマス(拍手)諸君、私ハ
是ニ於テ思フ、昨年九月十月デアッタカト
思フノデアリマスガ、國民ノ多數ハ何ト云
テ居ル、恐ラク今ノ民政黨内閣ハ早クテ十
月、晩クモ十一月ニハ倒壊スルデアラウト
云フコトヲ申シテ居タ、マサカ、國民ノ多
數ガデアリマス、マサカ國民ノ多數ハ神ノ
ラヌ身ノ、濱口總裁ノ東京驛頭ニ於ケル遭
難ヲ豫想シテノ言デハナイ、民政黨ガ昭和
四年度ニ於テ、所謂上下兩院ヲ通過致シマ
シタル此豫算案ニ對シテ、實行豫算ヲ編成
スルト稱シテ、此議會ニ於ケル豫算案議權
ヲ無視シテ、洵ニ亂暴ナル經理事務ヲ御執
リニナツタ、其結果トシテドウデアルカト云
フト、昭和四年度ニ於テ三千數百萬圓ノ缺
損ガ出来タ、之ヲ補填スルニ前年度ノ剩餘
金九百萬圓ヲソレニ當テタケレドモ、尙ホ
二千六百萬圓ノ缺損ガ出来タカラ、之ニ
氣付タヤ、倉皇トシテ本年度ノ二三箇月過
テ居ル昭和五年ノ三月三十一日ニ、所謂震
災善後公債ヲ發行シテ、二千六百數千萬圓
ノ公債ヲ募集致シテ、サウシテ財政ノ補填
ヲヤッタデハナイカ、我黨ノ同志ニ依テ此
事實ハ別決サレテ居リマスガ、是ハ唯會計
法違反ニ非ズ、三月三十一日ニ納入命令ダ
ケハ出シタト云フコトヲ以テ、大藏大臣ハ
答辯サレテ居ル、此二千數百萬圓ノ金ノ納
入ヲ三月三十一日マデニサスルノニ、三月三
十一日ニ納入命令ヲ出シテ居ル、何デソレ
ガ出来ルモノデゴザイマスカ、是ガ彌縫糊
塗、頭隠シテ尻隠サズ、是ガ失政ノ現ハレ
デアリマス(拍手)次ニ昭和五年度デゴザイ
マスガ、是ハ又御手ノ物ノ所謂實行豫算ト
云フモノヲ一度モ二度モ更改ニナツテ御實
行ニナツタ、昨年ノ特別議會ニ於テ豫算ノ
見積ノ過大ヲ指摘致シタ時ニ、サニアラズ、
御心配ハ要ラヌト云フタ其口ノ下カラ、六月
ノ半バニ於テ八千百萬圓ノ缺損ヲ來シテ居
ル、所謂行政ノ經濟化ナドト申シマシテ、

六千萬圓ハ補填ガ付イタサウデアリマス
レドモ、數百萬圓ノ補填ハ付カス、尙ホ其
爲シタ後ニ於テ、凡ソ四五千萬圓ノ減收ハ
明瞭デアルト想像致シテ居ル、然カ財政ノ
破綻ヲラバ四年度五年度共ニ、是ハ財政ノ
破綻者シテノ前科者デアリ(拍手)此者ガ
斯ノ如キ財政ノ缺陷ヲ又復來シテ、此重要
ナル政策ニ破綻ヲ來スニ於テハ、國民ガ今
年一昭和六年度ノ豫算ノ編成ハ爲シ得ナ
イデアラウ、政治道徳トシテ、責任政治家
トシテ、速ニ罪ヲ國民ノ前ニ謝シテ、此閣
僚全部ハ總辭職ノ舉ニ出ルデアラウト思ヘ
バコソ、此十月、十一月ハ内閣ハ總辭職ヲ
スルモノダト、國民ハ堅ク信ジタノデゴザ
イマス(拍手)然ルニ厚顔無恥ニモ此財政窮
乏ヲ、有ユル特別會計其他減債基金ノ繰入
ヲ中止スルコトニ依テ財源ヲ補填致シテ、
彌縫致シテ居ルノデアリマスガ故ニ、責任道
徳、所謂責任政治ノ本領ヲ辨ヘ、立憲政治
ノ根本ヲ理解スル者デゴザイマスレバ、是
ハ少クモ爲シ得ナイ事柄デアリマスルガ、
之ヲ敢テ爲シ得ントスルガ爲ニ、斯ノ如キ
窮策ヲ演ジテ居ルノデアリマス

民政黨ハ所謂十大政策ヲ掲ゲタ一昨年ノ
七月組閣當時ニ掲ゲタ所謂十大政策ノ何ヲ
ヤツデ居ルノデアリカ、所謂政治ノ光明ヲ
言フデ政治ノ不光明ニヨリ甚シキハナイ、國民
ニ所謂民心ノ作興ヲ唱ヘテ、民心ノ廢頹今日
ヨリ甚シキハアリマセヌ、食フヤ食ハズノ
國民ニ、民心ノ作興ガ出来マスカ、況ヤ綱
紀ノ肅正ヲ唱ヘテ選舉對策ニ利用致シマシ
タケレドモ、是ハ空理、是ヨリ甚シキハナ
イノデアリマス、又所謂對外交ヲヤル、
追隨外交ヲヤルコトニ依テ常ニ失敗ヲ致
シテ居ルノデアリ、永井柳太郎氏ノ如キ、
時ノ顯官ヲ以テ所謂南京ニ於テ貴國ヲ一
等國ト認メタル言フタ、此言辭ニ對シテ謂レナ
キ憤慨ヲサレテ、御馳走マデシテ取消ヲサ
レタト云フ事實ハ、何ト見ルカ、時ノ政府
ノ顯官、外務ノ政務次官ガ、貴國ヲ一等國
ト認メルト云フコト、此外交辭禮ニ對シテ
意ヲ挾マヌト云フノハ、如何ニ支那ガ日本
ノ追隨外交ニ對シテ、日本ヲ祇メテ居ルカ、
日本ヲ馬鹿ニシテ居ルカト云フコトハ、之
ニ依テ明瞭デアリマセヌカ、況ヤ露西亞
ノ所謂浦鹽ニ於ケル朝鮮銀行ノ如キハ、遂
ニ廢止ノ已ムヲ得ザルニ立至タト云フコ
トハ、今日ノ新聞電報ニモ書イテアル、一
トシテ失政ナラザルハナシ、對支軟弱外交、
是ヨリ甚シキハナイト私ハ斷言スルノデア
リマス(拍手)爾カ致シマシテ、所謂財政ノ
整理、軍備ノ縮小、公債ノ整理、償還、或
ハ金解禁、或ハ社會立法、悉ク失敗致シテ
居ルデハナイカ、悉ク爲シ得ナイデハゴザ
イマセヌカ、爲シ得テ居ルモノハ、例ハバ
金解禁、財政ノ整理緊縮ノ如キ、悉ク失敗
ニ終テ、國民ヲ今日ノ如キ失業苦ノどん底
ニ叩キ込メデ、生活困難ノ狀態ニ陥ラシメ、
遂ニ救フベカラザル大動搖ヲ實現致シテ居
ルノデゴザイマス

多クノモノハ爲シ得ズ、爲シ得タモノハ
悉ク失敗デアル、爲スト斷言致シマシタル
社會立法ハ何ヲ致シテ居ルカ、所謂救護法
ヲ提案致シマシタ時ニ、昭和五年ノ四月一日
ニ實施シテ吳レト云フ、附帶決議シマシタ
民政黨ノ手前、是ガ今ノ内閣ノ當事者デア
ルガ故ニ、當然議會ニ出スベキモノデアリ
マスルガ、一年ニ四百萬圓ノ救護費スラ之
ヲ提案スルコトガ出来ナイデハナイカ、況
ヤ其失政ノ結果不景氣ハ彌ガ上ニモ嵩ンデ
來テ、失業者ハ非常ニ増加シ、所謂道ニ餓
拳橫ハルノ今日ニ於キマシテ、僅ニ昭和六
年ノ一箇年、イカヌケレバ半箇年、十月一
日カラ之ヲ實施スルコトニ依テ、僅ニ二百
萬圓ノ經費シカナイ、之ヲスラ實施致サナ
イ、又值切リ小切リヲスルコトニ依テ、遂
ニ昭和六年一月一日ヨリ一箇年四分ノ一ノ
百萬圓ノ經費ヲ以テ、此救護法ヲ實施シテ
吳レト云フ國民ノ熾烈ナル要求ニ對シテス
ラ、此百萬圓ノ經費ノ捻出スルコトガ出来

ナイ、遂ニ方面委員ハ奏上マデ申シ奉テ、宸襟ヲ惱シ奉ルト云フヤウナコトハ上御一人ニ對シテ何ト御託ビ致スノデゴザイマセウカ……

〔發言スル者多シ〕

○副議長(小山松壽君) 靜肅ニ願ヒマス

○宮澤裕君(續) 斯ノ如ク悉ク政策ニ失敗致シ、所謂食フヤ食ハズノ國民ニ向テハ速ニ其罪ヲ謝ス、上御一人ニ對シ奉リ骸骨ヲ乞フテ、而シテ國民ニ對シテ其罪ヲ謝ス、是レ立憲政治家ノ態度デアリ、斯クシテ再ビ直直スノガ諸君等ノ爲メデアル、立憲政治家トシテ諸君等ニ失政ガアルナラバ、其罪ヲ天下ニ謝シ、政府ノ名分ヲ立テ、立憲政治ノ正道ニ移ルトガ諸君等ノ重大ナル任務ト信ズルノデアル、私ハ本案ヲ全部返上致シマス同時ニ、民政黨内閣、民政黨諸公ノ反省ヲ促シ、速ニ總辭職ヲ希望致シマシテ此壇ヲ降ルノデゴザイマス(拍手)

○副議長(小山松壽君) 淺川浩君

〔淺川浩君登壇〕

○淺川浩君 本員ハ只今上程ニ相成リマシタ特別會計營繕費ニ關スル件、少數意見ニ反對ヲ致シ、原案ヲ支持スル爲ニ登壇致シタノデアリマス、只今宮澤君ニ依リマシテ少數意見ノ御發表ヲ拜聽致シマシタ、委員會ニ於テ、又本會議ニ於テ、政府ノ提案ノ説明、委員會ニ於ケル政府ノ説明、之ニ依リマシテ吾々ハ此原案ニ賛成ヲ致ス者デアリマス、宮澤君ノ各案ニ付テノ御意見ニ對應致シテ細論ヲ致ス答デアリマスレドモ、其必要ハナイト認メマス、要ハ昭和三年ノ前内閣總選舉後ニ於テ、經濟困難匡救ノ決議案ガ前内閣ニ致サレテ居リマス、一昨年ノ七月成立ヲ致シマシタル現内閣ハ、十大政策ヲ設ケマンテ殘ラズ實行シテ居ル、殊ニ財政ノ整理、國家ノ經濟ヲ直スノニハ財政ノ整理カランテ行カナケレバ相成ラヌ、先以テ財政ノ整理ヲ致シ、國家ノ財政ノ安固ヲ致シ、サウシテ後ニ國際經濟ノ

「レベ」ヲ求メ……

〔副議長退席、議長復席〕

而シテ國民經濟ノ建直シヲシナケレバナラヌ、現政府ハ此十大政策ニ付テ現ニ其實行ノ過渡期デアル、吾々ハ此財政ノ整理時代、國際經濟ノ平均ヲ得ル上ニ於テ、國民經濟ヲ建直ス上ニ於テ、最モ適當ナル、過渡期ニ於テ已ムヲ得ナイコト、信ズル故ニ、原案ヲ賛成スル次第デアル、色々宮澤君ニ於テ政策ノ破綻トカ色々ノ事ヲ仰シヤラレマシタガ、既ニ是等ヲ論ズル必要ハナイ、此道程ニ於テハ已ムヲ得ズ原案ニ賛成スルヨリ外ナイ、希クハ多數ノ諸君、ドウゾ反省セラレテ原案ニ賛成セラレンコトヲ(拍手)

○議長(藤澤幾之輔君) 是ニハ討論ヲ終リマシタ、右七案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤ御諮リ致シマス、第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

〔贊成者起立〕

○議長(藤澤幾之輔君) 多數デアリマス、仍テ七案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○作田高太郎君 直チニ七案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ七案ノ第二讀會ヲ開キマス

特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案 第二讀會
特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルコトニ關スル法律案 第二讀會
賠償金特別會計法廢止法律案 第二讀會
昭和四年法律第二十六號中改正法律案(神戸商業大學移轉改築費ニ關スル件) 第二讀會

京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案 第二讀會

製鐵所特別會計法中改正法律案 第二讀會

簡易生命保險特別會計法中改正法律案 第二讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議モアリマセヌカラ、委員長報告通り決シマシタ、是ニテ七案ノ第二讀會ハ終リマシタ(拍手)

○作田高太郎君 直チニ七案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ第三讀會ヲ開キマス

特別會計ニ於ケル營繕費ニ關スル法律案 第三讀會

特別會計ノ恩給負擔金ヲ一般會計ニ繰入ルコトニ關スル法律案 第三讀會

賠償金特別會計法廢止法律案 第三讀會

昭和四年法律第二十六號中改正法律案(神戸商業大學移轉改築費ニ關スル件) 第三讀會

京都高等工藝學校移轉改築費ニ充用シタル金額ノ補填ニ關スル法律案 第三讀會

製鐵所特別會計法中改正法律案 第三讀會

簡易生命保險特別會計法中改正法律案 第三讀會

○議長(藤澤幾之輔君) 別ニ御發議ガナケシタ(拍手)

○作田高太郎君 議事日程變更ノ動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程ヲ變更シ、淺原健三君提出、警察權行使ニ關スル緊急質問ヲ上程シ、其趣旨辯明ヲ許可セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、警察權行使ニ關スル緊急質問ノ趣旨辯明ヲ許シマス——淺原健三君

警察權行使ニ關スル緊急質問(淺原健三君提出)

〔淺原健三君登壇〕

○淺原健三君 昨ハ衆議院議員ノ權威確保ノ爲ニ、警察權行使ニ付テ内務大臣ニ重要ナル緊急質問ヲ致サントスル者デアリマス、安達内務大臣ハ野ニ在ル數十年、常ニ議會ノ權威確保ノ爲ニ戰ヒ續ケラレタ、自他共ニ許ス政界ノ苦勞人デアアル、故ニ私ノ此衆議院議員ノ權威保持ニ關スル質問ニ當テ、御答辯ヲナサレニ際シテハ、部下ヲ護ルノ餘リニ急ニシテ、將來ノ議會ノ權威ヲ冒瀆スルガ如キ、閣僚意識ニ驅ラレタル一時的答辯ナク、安達内務大臣ノ誠實ニシテ、眞實味溢レタ明快ナル御答辯アルベキコトヲ、前以テ御願致シテ置ク所以デアリマス

吾々ハ昨年二月ノ十八日、芝協同會館ニ於テ午後一時カラ社會民衆黨、勞農黨並ニ全國大衆黨、三無黨政黨協同ノ下ニ、濱口内閣即時打倒、醜惡議會即時解散要求ノ民衆大會ヲ開催致シタノデアリマス

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○淺原健三君(續) 大會ノ席上ニ於テ、入場者一千名ハ、民衆ノ名ニ依リ、全會一致ヲ以テ濱口内閣打倒ト、醜惡議會即時解散ヲ以テ決議ヲ決定致シマシタ、其決議ヲ齎ラシ、内閣總理大臣代理幣原喜重郎氏ニ手交セシムベク、大會ハ各黨六名ヅ、都合三黨合セテ十八名ノ代表實行委員ヲ選定シテ議會ニ向ハシタノデアリマス、吾々無產黨議員同僚五名ハ、是等十八名ノ代表者ヲ案内致シマシタ、時十八日午後五時二十分

衆議院ノ通用門ニ至リテアリマス、然ルニ何事ゾ、制服ノ巡査百數十名、加フルニ騎馬巡査數騎、此等官隊ハ衆議院ノ構内ニ入レル者ヲ合セテ總勢三十名ヲ、議院ノ構内ヘ一ニ開入リ居リタルニモ拘ラズ、院内警備ノ任ニ在ル制服警察官ト協力シテ、門外ヘ暴力ヲ以テ突出シタルアリマス、サウシテ突如トシテ通用門ノ門扉ハ内カラ堅ク鎖サレテ、門ガ閉メラレテシマッタノデアリマス、時恰度豫算討論ヲ終ラントシテ、豫算ノ採決目録ニ迫レル場合デアリマシタ、吾々同僚五名ハ、全有權者ノ輿望ヲ荷シ、議員ニ當選セル衆議院議員ノ重大ナル任務中ノ最大任務デアアル豫算案ノ採決ニ當リ、反對投票ヲ爲スベク

〔發言スル者多シ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
大ニシテ開門ヲ迫リ、更ニ扉ヲ叩キテ開門ヲ連呼シタルアリマスガ、門際ニハ警視ノ制服ヲ著ケタル警官及ビ院内取締ノ任ニ在ル土野某ト稱スル警官、其他制服警官數十名ハ、門扉ニ體ヲビツタリケ付ケテ、斷ジテ開門ヲ背ンジョウトシナイノデアリマス、押問答遂ニ數十分、漸クニシテ代議士五名及ビ代表者デアアル社會民衆黨ノ書記長赤松克麿君、全國大衆黨執行委員會議長麻生久君、並ニ社會民衆黨ノ選出前衆議院議員デアアル龜井貫一郎君、其他都合總勢十二三名ガ漸ク門内ニ入ルコトヲ得タルデアリマス、然ルニ諸君何事デアアルカ、衆議院ノ構内ニ於テ、行政警察權カラ獨立シタル院内ニ於テ、入リテ代議士五名、代表者數名、ソレガ院内ニ於ケル制服警官ノ爲ニ打ツ、蹴ル、毆ル、引摺リ倒ス等、有ユル暴行ヲ受ケタルデアアル(拍手)是ハ或ル方ハ左様ナコトガナイト仰セラレラデアラウト信ズル、然リ、サウ信用スルコトガ常識デアアル、併シ昨日ノ現場ハ各新聞記者諸君、又ハ民

政、政友ノ院内事務員諸君、或ハ民政黨ノ中ニモアルカモ知レマセウガ、政友會ノ代議士諸君モ、アソ構内ニ於ケル警察官ノ打ツ、蹴ル、毆ルノ暴行ヲ、ハキリト目撃セラレテ居ルコトハ、動カシ難キ事實デアアル、特ニ甚シカコトハ、龜井貫一郎君デアリマス、龜井君ハ前代議士ノ資格ニ依リマシテ、登院章ヲ貰ヒ、殆ド毎日議會ニ出入セラレテ居ル人デアアル、龜井君ハ自己ノ胸ニアル登院章ヲ示シ、更ニ龜井貫一郎ナル姓名ヲ明カニシタルニモ拘ラズ、龜井君ヲ取巻イタ十四五名ノ制服巡査ハ、不當ニモ龜井君ヲアノ冷イ歩道ニ叩キ付ケ、泥靴ヲ以テ蹂躪シ、更ニ頭髮ヲ掴ンデ引張り廻ハシ、衆議院々内醫務局ノ診斷、治療十日ノ傷害ヲ加フルニ至リタルデアリマス(拍手)吾々ハ此暴行ノ中ニ採マレ、更ニ當時龜井君ノ傷害ニ依リテ、醫務局ニ之ヲ運ンデ居ル間ニ、遂ニ豫算討論ハ採決ニ入リテ散會シテシマツクノデアリマス、故ニ吾々ハ、誰ガ命令ヲ發シテ衆議院ノ通用門ヲ閉サレタモノデア

ルカ、先ヅ其命令者ヲ糾スコトヲ以テ、最モ爲スベキ急務デアアルト信ジタ、故ニ議會散會後、直チニ歸ラレヤウトスル、藤澤議長ヲ擁シテ、議長應接室ニ訪レ、藤澤議長ハ通用門ノ閉鎖ヲ命ゼラレタカ否カラ非公式ニ御尋ね致シタルデアリマス、然ルニ藤澤議長ハ明言シテ曰ク、私ハ當時豫算ノ討論採決ニ方テ、議場ニ在リ、左様ナ事ハ全ク存ジマセウ、然ラバ議院ニ於ケル警察權ノ絶對ノ支配權ヲ持タル藤澤幾之輔氏ガ、之ニ對シテ一言ノ命令モ發セズ、寸毫ノ關係モ御持チニナラナイコトハ、藤澤幾之輔氏ノ人格ニ依リテ、非公式デアアラウトモ、此一言ニ依リテ明瞭ニ信ズルコトガ出來ルト思フ、然ラバ議長ノ命令ナカリシニモ拘ラズ、警務課ガ獨斷ニ依リテ門ヲ閉シタカト思ヒマシテ、更ニ副守衛長ヲ警務室ニ訪レテ尋ネタ、然ルニ副守衛長亦明言シテ曰ク、私ノ知レル範圍ニ於テハ、守衛ニ向テ門ヲ閉

スノ命令ハ發シテ居ナイ、更ニ又私ノ知レル範圍ニ於テハ、斷ジテ守衛ガ門ヲ鎖シテハ居ナイ、然ラバ議長命令セズ、警務課之ヲ執行セズトスルナラバ、議會始マテ恐ラク初メテ、議員登院阻止ノ結果ニ至レル閉門ノ如キ、前代未聞ナル……

〔正門ガアルデヤナイカ〕其他發言スル者多シ

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○議長(藤澤幾之輔君) 此奇怪事ハ、議長ノ命令ニ依ラズ、警務課之ヲ執行セズト云フナラバ、唯警視廳當局ノ獨斷專行ニ依リテ行ハレタモノト云ハザルヲ得ナイ、然ラバ其責任ハ安達内務大臣ノ負ハルベキモノデアアルコトハ、言ハズシテ明瞭ナル結論ダト信ジマス、故ニ私ハ簡單ニ三ツノ要點ヲ擧ンデ、安達内務大臣ニ御尋致シマス

第一ハ議長命令セズ、警務課執行セザルニモ拘ラズ、警視廳當局ノ獨斷專行ニ依リテ、何ガ故ニ通用門ヲ閉鎖シタカト云フ、此質問ニ對シ、安達内務大臣ハ明瞭ニ御答シテ戴キタイ、或ル人ハ仰シヤルカモ知レナイ、正門ガ開イテ居ルト云ハレカモ知レナイ、必ズヤ正門ハ開イテ居ラデアラウ、併ナガラ衆議院議員ハ正門カラ入ラウト、通用門カラ入ラウト、衆議院議員ノ絕對自由デアリマス、況ヤ警察官ガ通用門ヲ鎖シ、議員ニ向テ正門ニ廻レナド、命令スル權能ハ、如何ナル法律ニ依リテ許サレテ居ルカト云ハザルヲ得ヌ、或ハ内務大臣ハ正門ヲ閉セルコトニ付テ、前例アルコトヲ以テ、御答辯ノ具ニ供セラレルカモ知レナイ、成程今カラ十四五年前、正門ガ閉サレタ前例ハアルサウデアアル、併シソレハ群集ガ衆議院ノ正門ニ殺到シ、其數數萬ト云フ數ヲ示シタ時、法律ノ規定ハ、衆議院ノ正門ハ議員ニアラザレバ一步モ入ルコトハ出來ナイ、入ルベカラザル所ノ群集數萬ガ殺到シタルガ故ニ、門ヲ閉ジタモノデアラデ、通用門ヲ閉シタ前例ハ、五十九議會マデ、議會始マテ以來未ダ

一回モナイノデアリマス、承ル所ニ依リマスレバ、第三次桂内閣ノ當時、議長大岡育造氏ノ際ニ、數萬ノ群集ガ門前ニ殺到シタルモ拘ラズ、議長ハ門ヲ閉鎖ヲ命ゼス、傍聽人控室ニ何千ヲ入ラレタコト云フ、而モ其時ハ丁度停會當日デアラッタノゴト、大岡育造氏ハ傍聽人ヲ正門カラ退場セシメラレタ、更ニ第五十議會普選運動(デモンストレーション)ガ、贊成者、反對者共ニ行ハレタル時モ、亦通用門モ正門モ斷ジテ閉鎖シナカッタト云フ、而モ十幾年前正門ヲ鎖シタルノハ、議長ノ命令デ正門ヲ鎖シタルデアアル、今度ノ閉鎖ノ如ク、議長ノ命令ナク、警視廳當局ガ獨斷專行ニ依リテ閉鎖サレタ前例ハ遺憾ナガラ一回モナイコトヲ斷ゼザルヲ得ナイ(拍手)議院ハ申スマデモナク行政警察權カラ獨立セル場所デアアル、然ルニ警視廳之ヲ獨斷專行ス、其答デアアル、丸山警視總監ハ本日ノ新聞紙ニ於テ、昨日ノ事件ニ對シ新聞記者ニ談話シテ曰ク――官吏傍聽席ニ丸山警視總監ハ居ル答デアアル、ハキリ聽イテ置クベシ――アノヤウナ咄嗟ノ際ニ、門ヲ閉メタコトハ臨機ノ處置デ、議院法ニ低觸スルモノデアアリマセウ、斯ウ言明シテ居ル、何ト云フ不届ノ事カ、丸山警視總監ハ勝手ニ議院法ヲ解釋シテ、之ヲ執行スル自由ヲ何時委託サレタカ、コナ考ヘ方、コナ僭越ナ考ヘ方ヲ總監ガ持ッテ居レバコソ、突如トシテ警察官ガ上長官ノ頭ヲ反映シテ、議會ノ門ヲ鎖スノ暴舉ヲ爲ス、由來最近ノ丸山警視總監ノ態度ハ、我儘増長僭上至極、心アル者ヲシテ常ニ眉ヲ蹙メシメテ居ル所ノ警視總監デアアル、私ハ議長ノ命令モナク、警務課トノ協議モナク、唯警視廳ガ勝手ニ自己ノ權限内ニアラザル議院法ヲ解釋シテ、議院ノ閉門ヲ爲ス事差支ナシト云フガ如キ暴言ヲナス警視總監ハ、此一事實ヲ以テスルモ、安達内務大臣ハ罷免ノ責任アリト謂ハザルヲ得ナイ、最近ニ其例ヲ見マセウ又議會ノ通用門閉鎖ニ

對シ、内務大臣ノ明確ナル御答辯ヲ望ミマ

第二ハ院内ニ於テ衆議院議員ガ、制服ノ警察官カラ打ツ、蹴ル毆ル、引キ倒サレルノ暴行ヲ受ケル、是ハ日本ノ議會ノミデハナ

第三ニ御尋申上ゲル事ハ、門ヲ閉サレタ結果、無產黨議員五名ハ重大ナル豫算討議ニ參加スルコトヲ得ズ、遂ニ採決ニ當テ投票不能ノ舉ニ陥ラシメタコトニ對シ、安達

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 要スルニ昨日ノ事件ハ警察官ノ非常識ト暴舉ニ依テ始マリ、ソレ

テ、最近天下ニ認メラレテ居ル所ノ、報知新聞ノ急流緩潮子ノ筆ヲ茲ニ紹介スルナラ

如何ニアノ目撃者ノ間ニ、安達謙藏氏ノ治下ニ行ハレル「スパイ」政治ヲ、マザ「ト見セ付ケラレタカラ明瞭ニ物語」テ居ル(拍手)而モ内務大臣ニ特ニ申上ゲテ置キマス

ハ寫眞ヲ明瞭ニ御見セシテ置ク、門前ニ在者僅ニ三十名、門内ヲ固メル制服巡查二

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 要スルニ昨日ノ事件ハ警察官ノ非常識ト暴舉ニ依テ始マリ、ソレ

モノダト思フ、衆議院議員ノ登院ヲ阻止スルト云フコトハ、ソレガ無產黨議員タルト、或ハ野黨タルト、與黨タルトヲ問ハズ、衆

自體ヲ蹂躪スルモノデアル、而モ官僚出身ノ方ナラバ率ザ知ラズ、生レタ時カラ政黨人デアリ、議會人デアリ安達謙藏氏、自己

○國務大臣(安達謙藏君登壇) 淺原サンニ御答致シマス、昨十八日ノ午後一時カラ、芝公

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 要スルニ昨日ノ事件ハ警察官ノ非常識ト暴舉ニ依テ始マリ、ソレ

コトガ當然ノコト、考ヘマス
○議長(藤澤幾之輔君) 議長ニハ淺原君カラ御質問ガアリマセヌ、サウシテ只今ノ場

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス
○淺原健三君(續) 議員ノ爲スベキ最大ノ任務、憲法ニ依テ擁護セラレル投票權ガ、警察官權ノ暴舉ニ依テ、蹂躪セラレルト云

ラウニ、木デ鼻ヲ括ッヤウナ御答辯ヲナサツ
タ、先ヅ第一ニ門前ニ殺到シタル者ヲ百名
ト仰シヤツタガ、此寫眞ガ百名ニ見エルカド
ウカ(一部分ダト呼フ者アリ)此廣場ヲ撮
シタ寫眞ガ一部分ダト見ラレカドウカ、
併シ百歩千歩万歩ヲ讓ッテ、内務大臣ノ答辯
ノ通り、百名殺到シタルシテモ、二百名カ
ラノ正服巡查ガ居、タツ百名ノ而モ何
等ノ武器ヲ持タザル民衆……(發言スル者
多シ)彌次ガナクナレバ發言ヲ續ケマス、
議長ハ議場ノ騷擾ヲ御取メヲ願ヒマス
(發言スル者多シ)

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニ願ヒマス

○淺原健三君續) 若シ百歩千歩ヲ讓ッテ
百名トシテモ、タツ百名ノ民衆ガ、民衆ノ
自由ニ入り得ル——民衆ノ權能デアル通用
門ニ來カカラト云ッテ、正服ガ百名モ二百
名モ居リナガラ門ヲ閉デナケレバナラナイ
トハ、警視廳ノ警備能力ハ無能ノ極致ト謂
ハナケレバナラナイ(拍手)ソシナコトハ一
時通レノ詭辯デアリマス、一時通レノ同避
的答辯デアル、私ハ内務大臣ニ、若シ百名
ノ民衆ガ來テサヘ門ヲ閉デナケレバナラナ
カッタトスルナラバ、往年何千何万ト押掛ケ
テ來タ時ニ、門ヲ閉デナカッタ其當時ノ警視
廳ノ力ト、今ノ警視廳ノ力トハ百分ノ一「パ
ーセント」ニ過ギザルモノカト言ハザルヲ
得ナイ、ソレハ内務大臣ノ無能、警視廳監
ノ無能振リヲ、自ラ此壇上デ内務大臣ガ暴
露セラル、ニ過ギナイノデアル(拍手)
更ニ第二ノ質問デアリマス、院内デ暴行
ガ行ハレテ居リ、傷害ガ加ヘラレテ居ル、
而モ前衆議院議員トシテ名前ヲ知ラレタ人
デアル、而モ信用スベキ院内警務局デ十日
間ノ治療ヲ要スルト云フ診斷書ヲ書イタ、
此明確ナル傷害事件ニ付テ、安達内務大臣
ハ院内ノコトダカラ知ラナイ、議長ニ關ス
ルコトデアルガ故ニ知ラナイ、内務大臣、
若シ議長ガ此席上デ、私ハ命令ヲ發シタモ
ノデナイト宣言シタナラバ、安達内務大臣

ハ今ノ御答辯ヲ何ト始末ヲ御附ケニナル積
リデアルカ(拍手)民政黨ノ諸君ガ反對黨ノ
反對投票ヲ蹴飛バンシテ、藤澤幾之輔君ヲ議
長ニ舉ゲラレタコトハ、其人格高潔ナルコ
トガ全部ノ原因ナリト信ズル、然ラバ藤澤
幾之輔氏ガ昨日議長應接間ニ於テ、新聞記
者立會ノ下デ明言セラレタ言葉ヲ眞實ト承
ルコトハ、當然過ギル程當然ナコトデハナ
イカ、藤澤議長ノ此明確ナル明言アルニモ
拘ラズ、安達内務大臣ハ之ヲ回避セラレテ
居ル、私ハ此重要ナル緊急質問ニ當リ、安
達内務大臣ガ願ミテ他ヲ言ウテ、明確ナ答
辯ガ出來ナイノハ、安達内相ノ治下、如何ニ
極端ナル警察萬能政治ガ行ハレテ居ルカト
云フコトヲ、安達内務大臣ハ承認セラレナ
ケレバナラナイ(拍手)私ハ院外ニ於ケル無
產黨運動ガ、常ニ明ルイ政治、民衆警察、
言論ノ自由尊重、民衆ノ身體保護ナドト云
フ民政黨一流ノ空宣傳バカリデ、民衆ガ欺
瞞セラレテ居ルケレドモ、事實ハ安達議長
氏ノ治下、吾々無產運動者ハ甚シイ屈辱ト
蹂躪ヲ受ケテ居ルノデアリマス、其範圍
ガ——ソレハ小サクシタ圖面ガ昨日ノ暴行
デアリマス、處モアラウニ、場所柄モ辨ヘ
ズ、衆議院ノ構内デ、安達議長氏ハ斯ノ如
キ部下ヲ養成セラレツ、アル、私ハコンナ
安達内務大臣ニ向ッテ民衆ノ警察ナドヲ質
問スル吾々ノ方ガ愚デアルコトヲ悲シム、
唯吾々ハ、斯ノ如キ安達議長氏ノ封建的警
察政治ノ打破ハ、唯濱口内閣ヲ叩潰スコト
ニ依ッテ、實現スルコトヲ信ズルガ故ニ、
私ハ安達内相ニ對スル質問ハ打切りマス

○議長(藤澤幾之輔君) 淺原君、議事進行
ガアリマスカ

○議長(藤澤幾之輔君) 之ヲ許シマス

○議長(藤澤幾之輔君) 靜肅ニナサイ

○議長(藤澤幾之輔君) 淺原健三君登壇

○淺原健三君 議事進行ニ關シテ、議
員ガ議會内デ自己ノ權利義務ヲ完全ニ行使
シ得ルヤ否ヤニ付テ、議長ニ御尋致シタイ
ト思フノデアリマス
昨二月十八日午後五時二十分、通用門
ガ突如トシテ閉鎖セラレ、衆議院議員ノ登
院ガ警察官ニ依ッテ阻止セラレタガ、議
長ハ通用門閉鎖ノ命令ヲ發セラレタカ否
カ、若シ命令ヲ發セラレタコトスラバ、
如何ナル理由デ命令ヲ御發シニナツタカ、更
ニ若シ命令ヲ發セラレズトスラバ、議
長ノ命令ナキニ拘ラズ通用門ガ閉鎖セラレ
テ居タ、此事實ニ對シ院内取締ノ絕對責任
アル議長ハ、如何ナル處置ヲ御執リニナリ、
如何ナル御考ヲ御持チニナツテ居ルカ、此一
點デアリマス

更ニ第二ハ閉鎖セラレタル門カラ——閉
鎖セラレマシタ——閉鎖致サレマシタ門カ
ラ、無產黨議員五名ガ入院致シマシタル
際ニ、正服警官ハ各無產黨議員ヲ打ツ蹴ル
ノ暴行ヲ敢テシ、更ニ登院章ヲ持テル社會
民衆黨所屬前衆議院議員龜井貫一郎君ヲ、
院内ノ警務局診斷ニ基ケバ、治療十日ノ傷
害ヲ與ヘラレタル此事實ニ對シ、議長ハ如
何ナル議長トシテノ善後處置ヲ御執リニ
ナツタカ、是ガ一ツ

第三ハ此門ヲ閉鎖セラレテ居タ時間ハ、
議長ハドノ位ト御認ニナツテ居ルカ、吾々ノ
知ル所ニ依レバ……(議長ハ知ラナイ)ト
呼フ者アリ)議長ガ門ノ閉ッテ居ルコトヲ知
ラナイナドト云フ怠慢ナル議長ガ何處ノ世
界ニアルカ、私達ノ知レル範圍ニ依リマス
レバ——私達ノ知レル範圍ニ依リマスレ
バ、約二十四五分間門ガ閉メラレテ居タノ
デアリマス、其爲ニ議員五名ガ登院ノ自由
ヲ失ヒ、遂ニ……(表門カラハイレバ宜イ
デヤナイカ)ト呼フ者アリ)、遂ニ豫算案ノ
討議ニ當ッテ採決ニ加ハルコトガ出來マセ
ヌデシタガ、議長ハ通用門ノ守衛又ハ警察
官ニ向ヒ、議員ノ登院ハ本日ハ必ズ正門ニ
廻ルベシト命令ヲ發セラレタカドウカ、諸

君ノ彌次ノ如キ出鱈目ナ命令ハ恐ラク發セ
ラレナカッタデアラウ、然ラバ何人ノ手ニ
依ッテ豫算ノ採決ニ當リ投票權ノ行使ヲ不
能ナラシムルガ如キ閉鎖ヲ行ツタノデアル
カ、是レ議員ノ權能ヲ蹂躪シ、議員ノ權能
行使ヲ無視スル夥シイモノデアリマスガ、
之ニ對スル藤澤幾之輔氏ノ御考ハ如何デア
ルカ
以上三點ヲ御尋致シテ、藤澤氏ノ御答辯
ニ依リ、再質問致スコトヲ茲ニ保留致シテ
置キマス

○議長(藤澤幾之輔君) 淺原君ノ御質問ニ

御答致シマス、昨十八日之協同會館ニ於テ、
無產黨共同闘争委員會主催ノ、議會解散要
求無產大會ノ結果、陳情ノ爲メト言ッテ
百餘名本院ノ通用門ニ押寄せ、腕ヲ組ミ一
團トナリ、突進セントシテ、甚ダ不穩ノ情勢
ヲ示シマシタノデ、豫テ議院警備ノ爲メ出
張中ノ警察官ガ、其狀況ニ鑑ミ、構内ニ入
ルコトヲ拒絶セントシタルニ、其一團ハ強
ヒテ侵入セントシタノデ、一時——一時通
用門ヲ閉鎖シテ之ヲ防止致シマシタトノ事
デアリマス、議長ガ議院警備ノ爲メ會期中
警察官ノ出張ヲ求ムルコトハ、法規ニ基ク
コトデアリマシテ、又實際初期議會以來ノ
慣行デモアリマス(拍手)議長ハ其際會議中
デアリマシテ、議長席ニ著イテ居ツタノデ、
後ニ至ッテ其事情ノ報告ヲ受ケ、承知致シタ
次第デアリマス、其際警察官ノ執リタル所
ノ行為ハ、固ヨリ警備ノ職務ニ當ル者ノ當
然爲スベキ任務ヲ果シタモノト思フノデア
リマス、暴行云々ノコトニ付キマシテハ、
議長ハ未ダ左様ナ事實ノアツタ報告ヲ受ケ
テ居リマセヌ、聞ク所ニ依レバ警察官ノ暴
行ヲ爲シタト云フ事實ハナイト云フコトデ
アリマスガ、是ハ只今ノ演説ヲ聽キマシタ
コトデアリマスカラ、尙ホ取調ベルコトニ
モ致シマセウ、又通用門閉鎖ノ際多少混雜
致シマシタ趣デ、其陳情員中ニハ代議士及
ビ前代議士ノ徽章ヲ佩ビラレタル方ガア

タノデ、ソレ等ノ人々ニ對シテハ早速院內ニ入レルヤウ取計ヲタトコトデアリマス、又議員ノ登院ヲ阻止シタト云フコトデアリマスガ、通用門ハ混雜ヲ避ケル爲メ一時閉鎖シタノミデアリマス、又議員及ビ前代議士ノ諸君ハ、早速入場セラレルヤウ致シタトコトデアリマス、ノミナラズ正門ノ方ハ平素ノ通り何等異狀ガナカッタデアリマスカラ、議員諸君ノ入場ハ御自由デアッタノデアリマス、只今ノ所ニ於テ議長カラ御答致ス所ノモノハ是ダケデアリマス

〔淺原健三君「議長々々」ト呼フ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 議事進行デアリマスカラ再質問ハ許シマセヌ——此場合一言致シマス、先刻秋田清君カラ爲サレタル所ノ議事進行ノ趣ヲ政府ニ通知致シマシタ所、左ノ如キ報告ヲ得マシタカラ、之ヲ朗讀致シマス

首相臨時代理ハ濱口首相ノ症狀ニ付「唯今ノ狀況カラ推測致シマスルト、今後意外ノ變化ノナキ限り、三月上旬中ニハ出席致スコトガ出來ルデアラウト存ジテ居リマス」ト、本日本議場ニ於テ報告シタノデアリマスガ、此言明ヲナスニ付テハ、首相自身竝ニ主治醫ノ意見ヲモ慎重ニ考量シタ次第デアリマシテ、今日ノ所、是以上ノ言明ハ致シ兼ねマス

斯ウ云フ御返事デアリマス——秋田清君、何デスカ

○秋田清君 極メデ簡單デアリマズガラ、當席ヨリ發言スルコトノ御許シヲ願ヒマス

○議長(藤澤幾之輔君) 秋田清君

○秋田清君 只今ノ議長ノ御報告ハ承リマシタ、私ガ議長ヲ通ジテ御尋致シタルコトニ對シテ、政府ヨリ得タル御答ヲ以テ致シマシテハ、何等吾々ノ期待ニ副ハザルモノガアルノデアリマス、恐クハ國民多數ノ者モ満足致シマスマイ(拍手)隨テ濱口君ノ臣節問題ハ、今後盡々タル世論ヲ惹起スデア

ラウト思ハル、ノデアリマス、吾々ハ此濱口君登院時期如何ノ問題ニ付キマシテハ、今後嚴重ニ政府ノ態度ヲ監視スルト共ニ、相當ノ處置ヲ執ルベキコトヲ、茲ニ言明致ス次第デアリマス(拍手)尙ホ議長ニ於カセラレマシテモ、本院ノ議權尊重ト其擁護ノ意味ニ於キマシテ、相當ノ御考慮アランコトヲ促シテ置キマス(拍手)

○作田高太郎君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長(藤澤幾之輔君) 作田君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(藤澤幾之輔君) 御異議ナシト認メマス、仍テ其通り決シマシタ、次回ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後六時十三分散會

衆議院議事速記録第十五號中正誤

頁	段	行	誤	正
三三七	二	一二	工廠機能	工廠能力
三三七	二	一八	工廠機能	工廠能力
三三七	二	二五	軍艦ヲ造ル	軍艦ヲ造ル
三三八	一	一六	モウ少シ活	モウ少シ其